

なつてもなほ國家秩序の嚴格さを味はねばならない人は、國民の害蟲たるものであり、教へても直らぬ無政府主義的な分子であり、そんなものはどこの國家にあつても投獄されるやうな者である。

以上述べたすべてのことは、いつ誰にでも確信され得る事實である。それ故余は、今となつては終に外國も、別な眼を以て、われらを見るやうになつてくるだらうと思つてゐる。そして對ドイツの關係を、眞面目に吟味すれば、思ひ遣りのある承認をするやうになるだらうと思つてゐる。このことは特に、ドイツ國民の平和愛好の意志についても言はれることである。全世界の誰一人として、平和維持の必然性に異論を挟む人はゐない。誰でも平和建設事業の幸福を知つてゐる。そして全人類は、次々に起つた國民流血の恐怖に對して、生々しい記憶を持つてゐる。ドイツ國民は、最も烈しく、世界大戦のために苦しんだ。そのためにまた、最も深い平和愛で充たされてゐる。ドイツは、世界大戦によつて蒙つた傷を、平和的勤勞によつて癒すために、世界のどの國よりも平和を必要としてゐる。これは誰が見ても明瞭なことである。故に、世界が、絶えずわれらに、世界平和を脅威するといふ罪を負はすやうにしてゐるとすれば、それは不可解のことと思はれる。ドイツの内政上の状態の尖鋭化が、戦争の危険を齎すか

も知れない、といふやうなことは、國民投票の結果よりすれば、もはや誰も主張しようとは思はないだらう。「國民社會主義的ドイツの近々の没落」、「優柔不斷」、國民と政治との分裂、その他のことが語られる時代は決定的に過ぎ去つてしまつた。故に、與へられた事實を正當に評價し、必然的なる共同作業のための共通の前提を探究するといふことは、世界にとつて有益なことであるかも知れない。

しかしまた發展は如何なる形を呈してくるであらうか。國民社會主義的ドイツは、斷乎として自己の道を前進する。ドイツの政治は、今日、嘗てよりも一層堅實に、總統兼首相アドルフ・ヒトラーの統率下にある。國民投票に於て、非常に力強く表現されてゐる内政状態の整理は、また經濟關係の改良に對して、最も確固たる基礎を要求してゐる。經濟の分野に於ても、國民社會主義的政治は、自己の目的を達成するであらう。

かくの如くして、アドルフ・ヒトラーは、あらゆる場合に於けるドイツ國民に對する、世界の敬意を取り還すであらう。もしもそれが新しきドイツの理解ある評價をしてやらうと思はなくとも。しかし余は、われらの國境の埒外に於ても道理が勝利を收める、といふ信念は、棄て去りたくはないのである。よりよき洞察の、最初の徴候は、すでに現れたのである。技巧をこ

らしてまでも、全國民の實り多き共同作業を害ふやうに作られてゐる束縛が、早く取除かれ、ば除かれるほど、益々速く、國民社會主義革命が、世界に對し行つて來たことも、明瞭にされてくるであらう。

(一九三四、九月、ヘアルスト紙所載)

國民と指導級

權力を求めて戦つたわれらの最後の熱烈なる闘争以來、滿二ヶ年を経過した。一九三三年一月三十日遂に自由への門が跳び越えられたときの、あの素晴らしき、溢れるばかりの國民の歡呼と同様の迫力を以つて、攻撃の全力を擧げての最も大なる緊張の困難なる瞬間を、われらは想ひ起すのである。

この日を以つて、しかもわれら國民社會主義者にとつては、同時にわれらの使命を果すべき責任重大なる時が始まつたのである。即ちその使命とは、運命が新しきドイツ國の指導にかかつてゐること、ドイツ國民が國民社會主義的運動に對して、また總統アドルフ・ヒトラーがその國民に對して持つ信頼のことである。満足を以つて今日確言されてよいことは、國民と指導級とが互に同志なることを承認したといふことである。最も困窮せる時代に於て、ドイツはアドルフ・ヒトラーの指導により、その力の根源に立ち歸つたのである。われらがもしも過ぐる

年々の業績について語るならば、特にアドルフ・ヒトラーの仕事に共に働いた無名の人々に感謝と賞讃の言葉を送らねばなるまい。といふのは、われらの誰もが知つてゐることは、もしもわれらの背後に、總統によつて勇氣と力を更新された國民がゐなかつたとするならば、われらの使命は果されなかつたであらうといふことである。彼等は凡ゆる仕事を共に爲し、凡ゆる犠牲を喜んで拂ひ、一人ひとり賞品名簿に書かれてゐようと居るまいとに關せず、働いた人である。

四年間は、大建築の最初の階層を作るためのものであると總統は考へた。その二年はすでに過ぎ去つたのである。その二年間は體驗に於ても仕事に於ても實に豊富であり、ふりかへつて見ることも出来ないほどであり、われらが爲して來た經驗に基き將來の大使命に参照しようと思つて見ても徒勞なほどである。

一九三三年は嵐の如き速さを以つて無抵抗に敢行して來た革命の年であつた。公的生活の凡ゆる領域にあつて、新しき思想が道を拓き、過去に於ては不安なる議會主義的な權力所有者たちによつて壓迫されてゐたものが、實際に轉倒したのであつた。國內の敵の最後の解決がその主なる課題であり、國民社會主義運動に道を開くためには、それは不屈の精神で以つて短時間

の間に解決されねばならなかつたのである。

一九三三年には多くものに鉤がかけられたので、多くのものが鉤屑として落ちなければならなかつた。或る場合には、われらの新しき世界觀の闘士たちによつて侵害を受けたものもあるが、しかし全體としては今年まで總統の宣言に大體共鳴するに至つた。即ち一九三三年のドイツ革命ほど規律正しく實現された革命は、ほかにないのである。

總統の共働者全部に對して大なる整理が要求された。總統はわれらに外交上の重荷をも課したのである。國會に於ける、かの偉大なる五月の演説を以つて、總統はしかし移民者の虚言の敵意ある綱をひきちぎることが出來た。そして掠奪の興味ではなく、素直な自己保存の意慾がドイツ民族をその解放行爲にまで追ひやつたのである、といふことを外國に對して證明することが出來た。

革命頭初の嵐の如き速度ののち、一九三四年は比較的靜かな地固めの仕事に着手した。重點は主として社會的な問題に置かれた。國民的勞働の秩序に關する法律が制定され、一九三三年五月一日を以つて華々しく開始されるに至つた。かくてわが國民が國民社會主義の思想財として、總統の勞働に對して、以前から熱望して來たところのものが獲得されたのである。

失業者防止に關する規準を更に低めること、私的經濟の喜ばしき發展、それに由來するところの國家及び共同體に於ける公的財政の固定化は、この時代の仕事である。國家の警察が絶えず嚴格に敵の者に對する觀察を怠らなかつたとは云へ、かくて最初の鬭争の年の必然的に苛酷を要した手段によつて節儉が遂行されることが出來たのである。國民社會主義がその根源的な無條件性と頑強さを失はなかつたといふことは、總統がドイツ國民を野卑な傭兵の野心満々たる策謀から救はなければならぬといふ熱意によるものである。國民の内面的獲得と轉換を求めたの鬭争が、いかに大なる成果を收めたかといふことは、一九三四年八月の國民投票の輝かしき結果がこれをよく示してゐる。これは名譽ある將軍の死後、總統の搖ぎなき指導者の地位を確保したものである。

かかる事實上の明白な業績は、ドイツの國境を越えて國外にも成果を及ぼしたのである。ザール地方の國民投票は數日前に次のことを證明した。即ち分離主義者や移住民の嘘言が、いかに根據のないものであるか、その誹謗的な合言葉が今日では、いかに力のないものであるか、そしてまたアドルフ・ヒトラーによつて、再び全ドイツ人の意識にもたらされたドイツの血の共同體に於ける結合力が、いかに強固なものであるか、といふことが特に示されたのである。

内政的には一九三四年、新ドイツの輪郭が明確にされた。國家の新しい建設に關する法律を以つて一八三四年一月三十日に行はれた歴史的な行爲は、地方分離主義を以つて最後の解決を見た。そして目的を意識せる仕事に於て、この年は、先づ以つて特にプロシアから國家の新しい秩序に對する基礎を作つて行かうといふことに集中された。この方向にあつて特にプロシアの首相と國家の大臣とが兼ねられることになり、かくて從來の如き國家とプロシアとの二元的な禍ひを永遠になくし、兩者を有機的なものとするやうにした。

今や過去の惡弊を除去し、新しき國家に對する基礎を作つたので、これからの二ケ年は、アドルフ・ヒトラーの四ケ年計畫によつて、獲得されたる基礎の上に立つて、更にこれ以上の建設をなすであらう。すでに幾度も公表されたやうに、近き將來に於ては、國家の新しい地方分割が實行されるであらう。最も重要な部分領域に於て國家の制限のない權力が確立されたならば、（最近裁判所に於て起つたやうに）地方國家の最後の殘滓もなくなるだらうと考へてもよろしい。

國家とその分割された地方との關係が將來いかに形成されるべきかは、この際最も重要な決定として答へられるであらう。これに對する決定的なことは、總統が昨年の黨大會に於て述

べたのであり、即ち彼は立派な地方區と荒廢することのない地方が創造されるであらうと宣言したのである。

ドイツ國家を形成するといふ昔からあつた問題は今や新しく解決された。われら國民社會主義者は歴史からこれを學びとつたのである。われらは、中世紀に於て結局國家の壞滅に導いたやうな過ちを再び犯すことはしないであらう。われらはしかしながら、西方の革命家の範に倣ひ、多面的に形成された生活をドイツの地方にむりに統一したり、非常に違つたものを一つの場所に丸め込んでしまふやうなことをせぬやう、用心せねばならぬ。ザール地方の人民投票の體驗は次のことを明かに證明したのである。即ち頭を悩まして作つた國際的な限界にもかかはらず、國民社會主義によつて目覺まされたドイツ人の血の衝動は、外交的な砲撃や叛逆者のガス攻撃よりも遙かに強力である、といふことである。

われら國民社會主義者の誇りとすることは、アドルフ・ヒトラーのもとに、次の年も、ドイツ國民が數百年來解決せずして殘して來た問題に共働することが出来ることである。總統によつて點火されたる焰は、よりよき將來への道を示すものであることを、われらは確信するものである。

この一月の歴史的な記念日に當つて、國民社會主義新聞の購讀者募集の週間が始まる。われらの新聞もまた、政權を獲得し、勝利を完成した反駁戰ののち、總統によつて全く新しい大使命を持つことになつたのである。恐らく今のところ餘り關係がないやうに思はれるかも知れないが、われら凡てがアドルフ・ヒトラーへの信賴を示す新しき仕事として、この仕事も大いに役立つやうにせねばならぬ。

駁論の時代に於けると同様に、建設の時代に於ても、國民社會主義新聞は同志を承認し、その重要な領域に於て、完全に新しい生活形式を創造したのである。余はわれらの新聞の價値あり、理解ある共働作業を、完全なる建設事業に於て承認する。それは適當なるときに沈黙し——このことも必要である——また適當なときには、國民が理解する言葉を以つて語るのである。「フェルキッシェル・ベオバハター」紙は運動の中心機關として、國民と指導級とが密接に結合して不離の關係にあるやう、共に仕事をする使命を、他の新聞凡てと共に有するものである。

黨と國家

ドイツ國民社會主義を代表するところの黨と國家の基礎と理念、これはドイツ國民とドイツ國の偉大なる建設作業の最も重要な部分をなすものである。黨と國家といふ今日のドイツの二つの有力な成素の共同作業について、不明なのは國內ではなくて、寧ろ國外に於てである。そしてわれらがこの問題について話すのを遠方から聞けば聞くほど、黨と國家の共同作業には對立があるやうに見える。そしてこの主張される對立から、國民社會主義的國家の崩壞が豫言されるのである。

事態に最も密接に關與してゐる吾々自身は、以下の理由から、かゝる對立は少くともないといふことを知つてゐるのだ。即ち國家は、黨によつて初めて創作されたものであり、又國家は、われらの總統の理念と精神及び運動によつて充たされてゐるからであり、また第一に、それは國家に充満した運動の人々であるからである。

國家はわが國民の形成、生命の組成の最後の表現形式であり、かくてまた、われらの運動と黨の最後の表現形式でもある。

國民社會主義的運動は、從來の國家に對する反對のうちに、鬭争のうちに生起したものである。それはワイマールの國家に對し、單に對立に於てのみならず、それを否定するところまで遂行する遠慮會釋のない鬭争のうちに立ち上つたものである。

過去のドイツ國家は不道德のものであつた。それ故に消滅せねばならぬものであつた。それは從來のドイツの表現形式であつたのだ。その指導は不道德であり、卑怯であり、惡質のものであつた。われらは國民をして再び、英雄的に考へることを教へるやうな指導を國民に復活せしめるために、かくの如き指導を拒否せねばならなかつたのだ。

かくてわれらは、國民の中に新しき國家の概念を持つた新しき組織と、新しき指導を確立して、この指導のもとに新しき國民を形成せんがために、ワイマールの國家を、或ひは更によく云ふならば、一九一八年十一月の組織を否認したのである。われらは反抗時代に於ては、次のことで大いに惱まねばならなかつた。即ち人々は、われらを國家に敵對するものと見做さうとし、吾等を謂はゞ、理念構造に於て無政府主義だと説明しようとした。われらはかゝる誹謗者

に對して繰返し論駁した。われらは決して國家に對立するものではない。われらは強力な汚れなき國家を欲するがために、汚れた組織を破壊せんがために、汝等と戦ふのだと云つた。

貧窮と悲慘が到るところを支配し、薄弱と汚辱が新しきドイツを目立たせ、人間は彼等の見解に關する疑惑のうちに、何を爲すべきかを知らなかつた崩壞の瞬間に、總統はかの旗を掲げたのだ。最初は若干の僅かな人々が、次には數千の人々、幾萬の人々、數百萬の人々、最後には全國民がこの旗についてきたのだ。

國民運動の最初の闘士を闘争へとかりたてた旗、ハーゲンクローイツのために、數百の國民主義者は、喜んで彼等の生命を投じたのであるが、この旗は今日、わが國家の尊嚴の標である。それ故に、われらは今日、ドイツ國に對して何ら對立してゐないといふことは自明である。といふのはわれらは、われらの血によつて血を罰し、肉をわれらの肉によつてもぎとることは出來ないからである。かくの如き國家をわれらは建設したのだ。この國家は國民革命の、かの高潮のうちに建設された。そしてそのとき、國家の建築の上に、初めてハーゲンクローイツの旗がたてられたのである。われらは、われらの精神を以つて國家を充たすが故に、この國家を承認するのだ。この國家が、われらの總統の國家であるが故に、この國家に奉仕するのだ。

そこには何の對立もない。全體に奉仕せんがために、個人々々が彼の義務と彼の勤勞を果さねばならぬ。決められた仕事の領域に於ける共通の課題の分擔があるだけである。

われらは利己主義の基礎に植ゑつけられたやうな國家、われら國民社會主義者が原理としてうちたてたものゝ反對を表したやうな國家を否認したのだ、といふことを忘れてはならぬ。われらは憐れむべき分散主義に、うちのめされたやうな國家を否定したまであるといふこと、結局は、公的生活を充たす凡ゆる組織の同一生命から、われらの運動の全要求を正しとする同一生命が生ずる、といふことを忘れたくない。われらは決して別れるものではない、といふことは自明なことである。世界觀的に基礎づけられてゐる運動は、誰とでも別れることは出來ないのだ。それは凡てを擴充し、包含しなければならぬ。世界觀を代表する黨派は、その運動が行くべきところに立つてゐない限り偏狹である。われらは戦法に於て、いつもどこかの道をきり開いて行くのである。しかし根本的にはたゞ、唯一の明かな線があるだけである。われらは成るほど、戦法を變へることがあるかも知れぬ。しかしわれらは、その根本では揺がずに確固として立つてゐるのだ。それ故に勝利もわれらのものとなるのだ。

勝利の瞬間には、國民社會主義の黨以外に、或ひはそれと相並んで、別の政黨は一つもあり

得ないといふことは、われらにとつて自明のことであつた。われらは義務を持つてゐた。——このことはわが國民の將來が要求したことだが——この場合容赦することなく、偏狹に前進すべき義務を持つてゐたのだ。全く明かなことは、個々の人を、價値あるメンバーとして余のもとにひき入れ、その人の専門的知識によく合致したやうな仕事を、與へることは出来るのである。しかし、その人の中にかくされたものを、そのまま受け入れることは出来ないのだ。今はそれを打ちくだかねばならない。

この無味な平均化！ といふ聲を人はしばしば聞くであらう。たしかに到るところ、それは無味に見えるかも知れぬ。なるほどあちこちに、或る種の無理解や非常識なことが行はれてゐるかも知れぬ。ところが、そんなことは大きなところから見れば、なんでもないことである。組織を平均化するといふことは、國民の公共生活を通して流れ、形成する凡ての事物が同じ調子にされることであり、かくてこの公共生活が出来ただけ摩擦のないやうになることである。かうしたこと凡ては、同一の精神的理念によつて貫かれてゐなければならぬ。それは同じ根源から出てきたものでなければならぬ。

國民社會主義の精神財に一致しないやうなものは、凡て廢止されねばならなかつたことは全

く當然である。このことが今や全體が悪い結果となるとは、われらは主張したくないのだ。さうした時はもはや過ぎ去つてしまつたのだ。そんなものは、もはや新しいものとは調和しないのだ。みせびらかしの學生組合の廢止が、國民社會主義の綱領であつたといふやうに、誰かゝ事物をそのやうに説明しようとするならば、そんなものは邪道にあるのだ。しかしながら、國家の國民的共同に一致しないやうな、そして親しく感ぜられないやうなものを廢止することは必要であつた。かうした否定の存在が正當であり、しかも何か貢獻するものであるやうな時が與へられるのは少しも構はないことである。

かくして、われらの新しき國家は創造されたのである。この國家の先頭に總統が立つた瞬間に、對立は終つたのである、或ひはもつとよく云ふならば、以前の國家の政黨の鬭争が終つたのである。總統は革命が終つたのだと説明した。空想的な、頭の混亂せる者どもが、革命のための革命は永遠に續いて行くものだと思つたとしても、その中にある危険はもう無くなつただと簡単に説明した。彼が黨と國家との統一を宣言した瞬間に、彼は革命を追ひ拂つたのだ。今日黨と國家が全一として存するならば、黨と國家との問題を正しく分けるために、分割といふことが自然に、こゝに今や入つて來なければならぬ。諸君の中の多くは、今年のニール

ンベルグの黨大會の獨特な、力強い最後の宣言を聞いたであらう。そして總統の力強い言葉の證明を聞いた筈である。その中で總統は、黨と國家の問題について、明瞭な區別をしたのであり、よき意志を持った人ならば、誰でもそれを聞いて誤解はなくなつた筈である。黨と國家に對して、前のやうに希望し、志し、行動するやうな誤つた者は今や、誰もゐないであらう。簡潔に余は、總統がわれらの勞働に對して正當なる例を引かれ、個々の例を示して、その立場を明かにされたことを、もう一度にこゝに總括して述べようと思ふ。

黨は國民の活動に對して、偉大なる目的を置いてくれたのである。それはしかも、國民社會主義の思想財から生れた目的なのである。黨は公共生活をして、この目的に一致させるやうにした。そしてこのことは、總統が國民をどこまでも訓練して行き、自由に任せる最も重要な課題の一つであり、わが國家を完成するのに必要なものである。そして黨は結局、どこまでも疲れることなく努力し、凡ての國民を國民社會主義的に教育して行くのである。

最も重要な領域に於て、既に權力の把握が全く決定的な進みをとつてきた。指導的な國家の要職は、優れたる國民社會主義者たちによつて占められたことを考へて見るがよい。現在と過去三、四年前との間に、明かな間隔を認めるために、ナチス運動の人々によつて國家の中で

創られたものを、われらはこの轉換期に目前に見なければならぬ。

余ははつきりと國防自由の確立を先頭に立てる。われらは謙讓なる態度を以つて、國民社會主義を闡明しなければならない。それは専ら、われらの仕事となつた。總統とその配下の國民社會主義者のみが、よくかやうな大膽な決心をなし得たのである。

われらが今日満足して居り、わが國民が今日、その國防力に歡聲を擧げるならば、何人も余が再三繰り返すやうに「ハーゲンクローイツの勝利を實らさない軍隊、大砲、飛行機は、一つもこれをあらしめてはならない。」ことを忘れてはならない。

余は、余の命令範圍内に屬する空軍に、黨の總統が空港に現れたならば、彼によつて創設された軍隊は、もうこの人の闘ひが始まつたことを想起すべきこと、また必ず注目の禮をなすべきことを命じてゐた。

われらは、われらが勝利を得た今日では、國防力に兵器と人間を加へ得ることを満足に思ふ。その上たしかな指揮のもとに、専ら國民の安全を獲得する劍が研ぎ澄まされてゐることを満足に思ふ。

われらは屈辱の幾星霜の間に、これをなさねばならなかつたのである。劍を毀された者はそ

の安全を奪はれ、安全を奪はれた者はその名譽をも失ふ。國防の缺如は常に、また名譽の缺如となり、安全の缺如となる！ われらが自由と、われらの名譽とを再び昂揚せんと欲するならば、總統が鍛へたドイツの劍は、この自由の防衛者となるであらう。

更に余は、ドイツ民族の一千年以來の懺悔が、今や形をなしたことに想到する。遂にわれらは、一民族一國家を形成し、何百年來われらを散々分裂させてきたものを克服した。ドイツの同族とドイツの各地方が、互に干戈を交へ、ドイツの傭兵が到るところの戰場に於て征服し合つてゐる間に、よその國では世界を分割したのである。しかしてドイツは、一體となることなく空しく過した。即ち、世界史に於て、地理的に未だ嘗て一國として現れたことはなく、たゞ意味概念として現れたに過ぎないのである。

過去の幾多の政治家に於て不可能だつたことが、總統とその運動に於て達せられた。それは國民の信望を得たからである。これまで人々が、國民は統一を欲してゐないと説明したとすれば、われらはこれに對し、ドイツ國民は常にその統一を望んだが、たゞ二、三の領主や君主が、これを欲しなかつただけである、と斷言しなければならぬ。總統が余を、大プロシヤ國の宰相に指名したとき「余は貴下が舊帝國の元老たる理由ではなく、舊身分の最後の人た

り、聯邦を創つた人たる貴下を宰相に立てる。」と云はれたことは、余の自慢とするところである。

正しくわれらプロシヤ人は、正當の理由を以てプロシヤの事業が國家統一の前提を、歴史の中にうち立てたことを明かにすることが出来る。二、三の支配者が、余のところへ來て、「貴下がドイツ國を創つたならば、プロシヤの貴族やプロシヤの政府はどうなるのか！」と云つたとすれば、余はたゞ、ざつくばらんに、「ドイツ國が出來さへすれば、これら凡てがどうなるか、といふ問題は世界中で最も取るに足らぬものである！」と説明することが出来る。

統一國家建設の事業はまづ、何よりも一度外國が如何にこれを見るかを考へなければならぬ。外國の政治家には、恐らくわれらよりもはつきりと、ドイツに於て百萬人の力が對立を解いて結合した場合、それは何を意味するか、びんと頭に來るだらうといふことを余は信ずる。他の國々が、既に何百年このかた所有して來たもの、しかして今やわれらが有するに至つたところのもの、これは總統とその運動のおかげである。こゝで何時間でも、一つ／＼の大きな仕事と重い任務、そしてその結果について話せと云はれたら話すが、それはお易いことである。いづれの大きな仕事も専ら、百萬のドイツ國民が喜捨をあてにすることなく、自らの手で仕事

を求めなければならないやうにすることにあつた。正にドイツの労働者は、慈善と乞食の國家によつて養はれることを苦々しく思つてゐたのである。物質的な問題ではなく、精神的なものであつたが、わが労働者は創造的國民の社會から閉め出されてゐることを感じて、壓迫を覺えた。かくの如きことは、初めから物質的なことを考へることなしに、建設の大事業を比類なき英雄精神を以つて成し遂げる、労働者の犠牲的精神に於て認め得る處である。この事業遂行のために、今日でもなほ、僅かな賃銀で喜んで全力を盡す。これは必要なことであるが、外國の労働者のなし得る處ではない。われらが満足してゐるとすれば、それはわがドイツの労働者がドイツ國民の本然に還つたことである。

今日ドイツ國民が、再びその労働の成果を享受してゐるとすれば、これは凡て、われらの運動の事業と創造にかゝつてゐるのである。過ぎし幾年の間、何度も繰返し云はれ、説明された。——「正に諸君の持つてゐるものは、凡て諸君のプログラムの中にある！ 今諸君が眞先に立つてゐるところでは、諸君はもはや不都合なものに目をつけようとは欲しない。例へば、これまで諸君の民族問題はどうかであつたか。しかして實行は何處に落ちつくか！」と。ニュールンベルグの本年の黨大會に於て、紳士諸君もその解答を得た筈である。即ちニュールンベルグ

の法律によつて、われらの黨活動の重要な諸點が實行に移され、わが國家建設の標石が建てられたのである。余はその際、總統の委任によつて旗則を定めたのであるが、諸君は誰でも嘗て戰場に翻つた古い光榮ある黒白赤の旗の前で、特別な確信と敬意とを以つて、これをなした事を知つてゐる。同様にいづれの國、いづれの都市も必ず、その道を示す各自の象徴を持つてゐる。しかしてわれらの國旗の色が、黒と白と赤であることが分らないのは色盲患者だけである。われらが年中そのもとで闘ひ、奉仕して來た勝利の象徴たる國旗を、ドイツ中に靡かせなければならぬことは自明な事に屬する。この國旗は、われらをドイツが有した、最もよい時代に引戻すことを象徴するものである。このことは如何なる領域に於ても忘れなかつたし、また決して忘れられないであらう！ 尤もこれは凡てに於て、常に同一テンボを以つて行はれ得るものではない。行進のテンボは總統一人がこれを定めるのである。これを欲しない者は追放されなければならない！

國民社會主義運動は、今日では全國民を捉へてゐる。彼等の手には新聞や映畫やラジオ等、國民を捉へ、啓蒙し、教育するに必要な凡ゆるものがある。

指導の任に當る官吏は、凡て運動の尖頭に置かれる。しかして將來、運動は凡ての個々人の

協力を得、かくして指導的な立場に於ける、統一的な考へ方が確められるのである。しかし總統が黨出身でない人間を用ひる場合には、われら國民社會主義者は、總統の眞意を認識するた
めに、うんと洞察を働かせなければならない。總統が人を信任に値すると考へた場合には、わ
れらもまた彼等を信任しなければならない。なぜならば總統は、われら全部を束にしたよりも
人を見る目を持つてゐるのであるから。

市町村に於て、縣に於て、到る處で、黨は能力を發揮することが出来る。諸君はしつかりし
た忠言者と、統一を與へる指導者を出す。殆んど凡ての指導者は、また同時に役所の尖端で
あり、國家行政の指導的人物である。しかして就中、ヒトラー・ユーゲントから將來、ドイツ
の來るべき指導者が現出するといふ一事が存する。

これは決定的なことである。といふのは、われらは國民社會主義の理念を把握し始めた（尤
もこれは大分成熟して來たが）第一代に過ぎないことを決して忘れてはならないのである。わ
れらは各自、前時代からの荷物をうんと背負つてゐる。各自は自分から多くのものを拂ひ落さ
ねばならない。労働者も、余及びその他の人々と同様である。われらは誤つた教育を背負つ
てきた。それがマルクス主義の階級的憎惡から生れたると、ブルジョア階級的自負から生れた

るとは全然問ふ處でない。われらは各自、新しい國民的理念財のための場所をつくるために、
多くのものを投げすてなければならないのである。

われらは第一代である。われらの一人々々が、或る者は速く、或る者は遅く、成し遂げたこ
とを一舉に要求することは出来ない。この世代が直ちに需めに應ずることを期待することは出
來ない。なぜなら彼等もう既に、餘りに永い間、別な道を歩いて來たのだから。今日の世代
が百パーセント、國民社會主義的に考へ、感ずるといふことも不可能である。今日の下司も、
有難いことに、いつかは、自由な國民社會主義者になるであらう。かく導くのがわれらの神
聖な使命である。

この教育事業こそ、われらが特に成就しなければならない最重要事である。將來運動と従つ
て國家がその人物を得るか否かは、これにかゝつてゐるのである。われらは特に、この教育に
自分を捧げ、この世代から徐々に完全なものが熟して來るのを助けなければならない。

教育の不可欠なる所以は、黨の凡ゆる地位がこれら青少年に接譲されるからであり、國家は
われらの肉體であり、それはわれらに屬し、そのためにわれらはこの國家に於て、この運動に
ゐると同様、協力しなければならぬからである。教育は各自を唯一の意志に凝集し、これを

總統の耳に共鳴させなければならぬのである。

運動が公的生活に於ける、色んなものに噛みついて攝取しなければならぬと信じた時代は終つた。今や到る處、運動の指導者たちは先頭に立つて、これらの問題を支配してゐる。公平な規律のもとに、黨の全機構が黨と國家の一致、といふ課題の達成の上に現れて來るのも、この問題の一つである。しかし國家機構と黨に於て、總統の指揮通りに歩調を合せない者は淘汰されなければならぬ。そのテンポは前にも云つた如く、たゞ、總統のみによつて定められる。總統がその道を迷はず進む正確さは、自ら凡ての人を導いて行く。それ故これはまた、總統の意志によつてなされるので、亂痴氣騒ぎや或ひは善意の熱情からする個々の行爲が、規律なしに遂行し得ると信じてゐる凡ての人に對立するのである。

國民社會主義を、とんでもない風に考へてわれらの處にやつて來、何か空想的な氣違ひじみた考へを持ち、血と土に關する國民社會主義的事業を誤解して、今でもウォータンや雷神のロマンティックな憧夢或ひはこれに似たこれをなし得ると信じてゐる人が、依然として事業に携つてゐることは否めない事實である。これは宗教と教會に對する、われらの態度にとつて重要なことであるが、これについては簡単に切りあげる。

國民社會主義者として闘争の全期間を過して來た人は、巨大な信仰の力を持つてゐることを證明した。更生ドイツを創り、これに與かることは、この大事業を祝福する全能者への、最も深い信仰によつて充填されなかつたならば、不可能であつたであらう。それ故、われら國民社會主義者が無神論者であると主張する者は、嘘をついてゐるのである。

われらが教會と闘つてゐると誰かゞ非難するならば、余は明瞭に説明する。「否！ 教會がわれらに闘ひを宣したので、われらは防禦に立つてゐるのである。われらは教會に對して、積極的なキリスト教徒の立場に立つてゐることを説明した。にも拘らず、教會がわれらを侵すものであり、われらを防禦に追ひつめたのである」と。

「今や教會は、次の一事を理解しなければならない。――即ち國民社會主義者は、未だ守勢的にも教會を忌諱したことはない。常に到る處で、われらは辯明にも積極的であつた。しかしして人々が、われらに休みを與へない間に、あちこちでよくあることだが、總統の意に添はないやうなことも現に起つたのである。われらが悪魔に與してゐると、人は國民に告げることが出来ない。むしろ、われらが國民に眞理を示すであらう。われらが他の人々の迷信を非難する根據を豊富に持つてゐるのに、われらが迷信に麻痺してゐるとは、人は云ふことが出来ない。」

教會は、次の一事については安心してよろしい。——即ち、教會が國民社會主義と妥協するならば、われらは教會と安んじて妥協し得るといふことについて！ 教會が安全を得るか否かは、一つに教會にかゝつてゐる。われらの運動は、就中、政府及び國家は未だ一度も教會を侵さなかつた。われらは教會に庇護を保證した。しかして教會は今日もなほ、充分な範圍に於て、この庇護を受けてゐることを知つてゐる。

それ故、人がこゝでわれらに對して何か非難をなし得るとすれば、以上のことに對しては、ない。運動と國家は信心深い國民を欲する。それ故われらは決して、信仰との闘ひを欲せず、また求めもしない。反對に、總統にはなすべき他の多くのことがある。彼は喜んで妨げられることなく、立派に完成せんとする教會以外の大事業を持つてゐる。しかし他方、人は、カトリック黨と福音黨が、教會と信仰を政治問題に濫用してより、まだ四年も経つてゐないことを忘れてはならない。國民に始終、信仰について語つたこれらの政黨が、議會では政治的利益のために、行動に於て神を否定するマルクス主義者及び共產主義者と相携へて、始終同じ目的のために投票したことを忘れてはならない。われらが反キリスト教的世界觀を擴め、そのために國民社會主義的著述を物したことに對して、教會が今日闘ひをなさんと欲するならば、余は簡単に

説明する。——われら國民社會主義者はたゞ、基本的な一書を知つてゐるのみである。しかしこれアドルフ・ヒトラーは「わが闘争」と名づけてゐるのである！ と。

しかし他面、われらは探し求める人々にたゞ、仕事が教會にとつて好ましくないからといふ理由で、また物の内部を照らす仕事が教會にとつて不愉快だからといふ理由で、仕事を禁ずることを許さない。また國民社會主義は、精神闘争者に對して、これまでの時代に於ける如く、火刑や審問を以て臨むことを拒否する。國民社會主義は、この場合傍觀者の立場に立つ。各自は自分にふさはしい場所に於て、事實を待つのみである。たゞわれらには公の仕事のみがあり世界觀的基礎即ち總統の書物のみがある。このことを國民社會主義者は、みんな知つてゐる。教會の人も、各自がこのことを知るならば爲になるであらう。

われら國民社會主義者は、教義論や信仰論議などの内部的なことに干渉する氣持を持つてゐない。われらは精神の自由、信仰の自由を欲する。しかしてこゝに於ては老フリッツに與する——「各自は、自分の流儀に應じて幸福となり得る。」

われらは他の組織、或ひは政黨がナチス黨員に偽装して、その復活を祝ふことも欲しない。またわれらは、例へば經濟黨が國民社會主義的に偽装した組織を作つて、その復活を祝ふこと

も欲しない。尤も、餘りに強力な分裂、分解は、それ自身としては、總じてわれらに幸ひしない。われらはたゞ、常に全體としての運動、國民社會主義労働黨を見るのみである！

余は今日再三、よりよき状態を作るためではあるが、如何に人がわれらの民族工作を濫用してゐるかを見る。その際、余はかう云ひたいのである。——「君は經濟黨の人間だ！ ナチスの黨服を脱ぎたまへ。君は道を誤つてゐるのだ」と。ベルリンの街に、ユダヤ人の衣服商が六人とドイツ人の衣服商が一人ゐるとする。そして八日の後には、人はもうユダヤ人の店では買はないので、ドイツ人の店では衣類を二倍に値上げするとする。その時はこのドイツ人も六人のユダヤ人と同類なのである。かくの如きは、誠に非國民社會主義的なもので、汚い儲けに對するわれらの神聖な方針を悪用するものである。われらは今後、最も鋭い監視の眼をこれに向けらるであらう。しかして余は、かやうなことをなす反省なき業者を排除するであらう。

逼迫或ひは困窮その他の状態から、價格のせり上げによつて何とか自分をよくすることが出來ると信じてゐる人たちにも、以上のことは當てはまるのである。どこかに物質不足の噂があると、もう充分に自分の腹を満たすことが出來ないと心配して買溜めする終生の臆病者も同じ部類に屬する。それ故、入口に「公益優先」のポスターを掲げて、裏口から買溜品を持ち込むや

うなことをしてはならないのである。われらはむしろ、この例によつて原則が守られることを望む者である。しからざれば、國民が一體となつてゐることを本當に感ずることは不可能である。他人や自分の利益を右顧左辯することは、こゝでは絶対にやめなければならぬ。われらが再三注意したやうに、労働者は賃銀の多さのみによつて政治を判断をしないこと、商人はその利益によつて、實業家は配當の高さによつて、農民は卵や豚の價格のみによつて政治を判断しないこと、そして政治が全國民のために、國民の將來のために創出するものゝ内容によつて凡ゆるものを判断すること、これが規準である！ 國民の教育に協力すること、一生國家の保護を受ける世話を到る處でなすこと、冬期貧民救濟事業に於てばかりでなく、凡ゆる狀況に於て、到る處でこれをなすこと、これが總統によつて任命された人の使命である。

運動員は、事物を變へることに責任があるのではなく、國家に於て責任ある地位に立つ黨の指導者が、情勢を判知し、これに應ずることに氣を配るべき責任があるのである。余の切望してやまないものは協働である。その際特別な目標が、工場と労働者の生活とに向けられなければならない。こゝに於ても事物はあるべき秩序より遙かに遠い、といふ報告を余は再三受け取つてゐる。工場の指導者が、われらの與へた廣大な自由と責任を正しく利用することが、まだ

どこでも行はれてゐるわけではない。われらが工場指導者や企業家を、彼等が労働者と團結してゐるかどうかによつてのみ判断し得るので、彼等が冬期貧民救済事業に、如何なる寄與をなすかによつては、はたはないのである。われらは指導者の資格を、何もせずに金で買ふことを望むものではない。豫算で働く政治家にとつては、今までの時代の方が遙かに適してゐたであらう。

凡てが秩序だつて居り、工場指導者が自分の責任と使命を認識し、また彼が純粹の尊敬すべき國民社會主義者として労働者と苦樂を共にし、工場の遊山や會社の催物には一度も行かないのを見るときほど、われらが満足に思ふことはない。指導者と配下の間に存在しなければならぬ本當の結合こそ、われらがこれらの企業家を判断する規準となるであらう。

黨員の配慮に委せられる事項は、工場指導者及び労働者の啓蒙國家生活にある國民社會主義者の教育等であり、それと共に彼等は自分たちに附せられた權力によつて、教育が何ら効を奏しない處にも關與することが出来るのである。

運動員は、ドイツの將來を全民族の前に、しかして全民族のために展開するための闘争に任ずる。しかしして余は、彼等がこれまでと同様に將來も、こゝに全力を盡すだらうと確信する。何人もこせこせした論争に身を磨り潰してはならない。また單に、個人的な復讐心或ひは功名

心に起因する手段として闘ふのは好ましくないし、また國民社會主義的でない。國民社會主義を理解しない者は、今日指導的地位に立つことが出来ないこと勿論である。しかしわれらの思想財を擷取して、これに従つて行動することを證明する人に對しては、彼が黨に加入する時期が決定的ではなく、彼が運動と國民に對して寄與するところが問題なのである。

われらは困難な時期を控へてゐる。ドイツは強くなつた。また、あまり衰へなかつたのである。總統はドイツの安全を確保するために、晝夜兼行で働いた。しかし安全が確保されるか否かは、われらのみにかゝつてゐるのではない。われらは安全を亂さんとする者を防禦する準備が出来てゐる。しかし一度國民が運命的な時期に召喚されなければならない場合には、困難な時期に成長した國民は、強い國民社會主義的國民でなければならぬ。そのために、また如何なる缺乏に當つても、如何なる領域に於ても、參らないやうに運動員に配慮しなければならぬのである。またわれらは、價格のせり上げや買溜めから犯罪が起ることを防止するために、百方手を盡さねばならないし、また盡すであらう。しかしドイツの建設、その足場構築には、金も材料も外貨も必要だといふ一事を知らなければならぬ！ 第三國家の柱石がのつかつてゐる強力な地盤は何であるか、諸君は云ふ。——總統に對する國民の信頼であると。この地盤

の上のみ、ドイツ國は興起し得たのである。この信頼は、どんなことがあつてもしつかりと固められなければならない。しかしてこの地盤には、ほんの少しの龜裂をも生ぜしめてはならないのである。これを犯す者は最も重い罪を犯すのであり、叛逆罪、大犯罪を犯す者である。なぜなら彼は、そのことによつてわれらの生活の根に斧を入れてゐるから。

誰がわれらを窺つてゐるかどうかは、取るに足らぬことである。何について悪口雑言を浴びせかけられるかといふことも取るに足らぬことである。かういふことは、あまり氣にかけてはいけないのである。

しかし總統に關しては、隈なき信頼と感謝と献身と傾倒以外の何もものもないのである。われら各自は、困難な時期に遭遇してゐる。この時に當つて決斷がなされなければならない。またかういふ時期には、ぐらつき易く、しかして間違つた助言者がわれらの耳に何かを囁かうとする。われらが動搖する度毎に、弱さがわれらを壓服しさうになるときに、われらは總統を見守る。しかして總統の輝く姿を見、新しい力が盛り上つて來るのを感じる。彼の力はわれらに分與されてゐるのである。しかしてわれらが正しく行動するならば、即ちわれらが總統に従ひ、彼の輝く手本に倣はんとし、自由人の規律に於て、彼の意志に従順であるならば、われらの目

的——わが民族の幸福、國民の偉大、ドイツ國の榮譽は達せられるのである。

(一九三五、一〇、二六、シュレジアの管區記念日に)

協働は平和を保證す

五月一日、ドイツ國民の祭日たる労働祭が済んだ。それは創造的全ドイツ人の協働への、しかして政治的指導への力強い信仰告白であつた。それはドイツ國民の一致せる意志表示であつた。それは全く一回きりの示威運動ではなく、この日以後も生き續けてゐるその日の體驗と新しいエネルギーは、國民とその指導のうちに擴がつてゐるのである。

ドイツに於てはただ一人の人間が命令するのである、といふ誇らかな確信が、常にわれらの中に充ちてゐる。彼の意志は最高原理である。しかしてわれらは凡て、かくあるべきであるといふ磐石の如き信念に於ける自由意志によつて服従する。かくて凡てはうまく行くのである。

この自由意志による決心から凡てのものが従ふ。しかして労働者の如き總理、従業員の如き事業經營者、ここにのみドイツ再興の驚異が存するのである。

偉大なる使命がまづわれらに解決すべき運命を課した。われらを芽生えのうちに諦めてやめさせるものは何もない。われらはわれらの時代の債務を辛い生存闘争の間に支拂ひ、この行爲

によつてわれらが歴史の前を耐へて行くことを示さなければならない。今日のわれらの最も切迫せる課題たる四ヶ年計畫を遂行するためには、最高の緊張と實行が必要である。總統は事業の大ききについても、困難克服についても疑惑を起さしめなかつた。しかしてアドルフ・ヒトラーから余に委ねられた強力な經濟變革の政治的指導を、變らぬ峻嚴と決意を以て（總統はこれを行爲の規準として、われらに義務づけたのである）斷行すべく、余は最初から遠慮會釋なく配慮して來たのである。

新しい工場の建設、新しい生産方法の導入、即ち經濟の生産面の高揚のみが、まだ充分でないことをわれらは承知してゐる。しかしてわれらにはまだ價值多く役に立つ發明と技術の革新が行はれ得る。しかし一撃を以つてそこに現れてゐる物資供給の困難が除かれ得るものではない。ただ何びとも次の一事を忘れてはならない——われらはこの困難を克服するに當つては、結局われら自身を頼るほかにないのである。人はドイツが世界經濟から離反すると非難する。しかし事實は世界經濟の全機構がその基礎からして誤つてゐるのである。それ故、個々の國民經濟の強化と獨立化の傾向は、漸次世界的規模となり、われらに再三門戸を閉鎖しようとして臨んだ諸國民に於てさへも、この傾向は停止しなかつた。しかし全く自然的根據から、このや

うな世界からの閉鎖によつて何の利益もあり得ない國があるとすれば、それは正にドイツである。われらの商業政策的努力は生活必需品の保全と、わが國民の獨立化に當つても常に、よりよくより理性的な國際的經濟關係の建設、即ち實力に應じた新しい世界經濟の建設に協力することを目標として來たのである。これが個々の場合に於て成功すればするほど、無理解と妨害も大きくなる。これをかくの如き理性の政治が再三遭遇するところのものである。われらはそこで總統の次の言葉を思ひ浮べる。「ドイツは生きんと欲するならば、几帳面な農家のやうに、經濟全體を展望的に、計畫的に導き運用しなければならない。」われらの努力は新しい物及びより多くを生産することにのみ向けられてゐるのではなく、同時にまた現在あるものを節約して正しく使ひ、理性的に管理し分配することにも向けられてゐるのである。

五月一日に總統は明瞭に説明した——「今後四ヶ年間に亘り、ドイツ國民とその心髓までも捉へるであらう、この強力な事業は、ドイツ國民の専心の傾倒によつて初めて成果多き達成を見る事が出来るのである。」この言葉に和する歡呼の聲は、創造的全國民の力強い反響であり、従前以上にしつかりと公平無私に協力せんとする意志の一齊表示であつた。

より大きな實行への衝動は、まづ第一に物質的なものではなく、また單なる個人的利害でもな

いことが、國民社會主義的世界觀の仕合せである。必需品と有用品に對する正當な要求が充たされ、より大きな實行に對しては、然るべき貨銀が支拂はれる事が、如何に大切であるかを余は知つてゐる。國民社會主義に於ては價格形成にも實行といふ根本原則のみが妥當する。價格も貨銀も經濟に於ては、第一次的なものではなく、總體の國民經濟的活動のみが決定的なのである。國家・經濟指導の課題は、この活動が高まり、妥當合理的な貨銀・價格形成によつて國民經濟一般の活動昂揚が、これに協力する個々人にも昂揚を齎すやうに配慮することである。

しかしこれは凡て、先づ社會存立の基礎が、しつかり据ゑられたとき初めて可能なのである。凡ゆる重要で必要な問題、個々人の生計と收入に關する配慮等は、わが國民の協働作業に従屬してゐるのである。この世はわれらを離れ難い鋼鐵の鎖で連繫してゐる運命の社會である。しかして、これはわれらに「一人は萬人のために、萬人は一人のために」といふ古い言葉を決して忘れしめない。

運命はわれらを有利な地位には置かなかつた。しかしわれらは未來を支配することを示すであらう。多くの人が恐らく最初の成果が大であると考へてゐるほど單純に、凡ては行かないであらう。われらは冷靜であり、實質的である。しかしてわれらは、ドイツを經濟的にも自由に

し獨立せしめる目的に向つて一層の努力をなす。

四ヶ年計畫はドイツ國民の協働の、目に見える實現である。この事業の成果が世界の多くの政治家たちに心配を與へてゐることを余は知つてゐる。ドイツは強くなければならない、それ故經濟的にも獨立しなければならぬ。なぜなら、終局に於て大きな國際的紛糾の原因をつくるものは、常に諸國民のうちの弱者なのであるから。われらは、他の政治家たちが生存鬭争を續けるために、その國民の實力を動員しようとも、これに對して何の異議もない。各國民はその生存の確保に必要なことをなす権利がある。しかしわれら國民社會主義者は、或る國民に對して、この権利の最後の否認者となるかも知れない。

しかしこのやうな意志は諸國民の協働を妨げるだらうか。總統はこれについて、ドイツは依然として諸國民の經濟的利害の協働統制に與る用意があると屢々明瞭に述べた。諸國民の政治的經濟的利害が、凡ゆる點に於て一致するものでないことは自明である。

しかし世界經濟的共存の決定的な大問題に於ては、責任ある人間は協調に達しなければならぬ。なぜならこれによつて彼等は永續的な基礎を持つた、世界平和の招來に貢獻する政治家として、この義務を果すことになるからである。もし不平を持つた破壊勢力が優勢になり、經

濟的窮迫を自己の計畫に利用するならば、世界の何びとも無關心ではゐられないであらうし、また無關心であつてはならないのである。富と財産によつて、他の諸國民の不安に對して優越を感じてゐるやうな諸國民があつた場合にも同様である。洞察と理性がもし勝利を得ないならば、混沌たる形をとるに違ひない大きな社會革命の最後の解決に、苦惱なしに乗り出して行くものは誰もゐないだらう。

ヨーロッパの平和を促進し、安定せしめることは、最初から國民社會主義的統治の努力するところであつた。しかしドイツが、この大きな目的のために強力に盡せば盡すほど、それだけ第一に何といつてもドイツ自身の國民生活、即ちドイツ自身の國民的獨立を強化し、社會の平和を確保することを念頭に置かなければならないのである。

この高い目的のために總統は晝夜全力を盡して、灼熱の努力を續けてゐるのである。その彼の手助けをすることが余の仕事であり、余の確乎たる意志である。この目的の達成に必要な經濟的社會的前提をドイツにつくるために、余はこれに凡てを賭してゐるのである。しかしして全國民殊に最前線にある凡ての責任者は、力に應じてこれに協力するものと余は確信する。これはわれら國民社會主義者に定められた道である。われらはこの道を力強く進み、以つて同時に

またわれらに課せられたヨーロッパと世界に於けるドイツの使命を果すのである。

(一九三七、五月「四ヶ年計畫」誌所載)

イタリアとドイツ

全ドイツは、親愛なる總統ヒトラーの美しきイタリア旅行に、心の中で随伴してゐるのである。そして、明後日、大ドイツ國家の宰相たる總統が、永遠の都市たるオステリアの驛頭で權勢隆々たるイタリア大權の榮光に輝けるファシスト黨首に友情の手を差し伸べる時には、七千五百萬のドイツ人の心臓は、アドルフ・ヒトラーがサヴォイ家、イタリア民族、及びイタリア民族によつて選定せられたる宰相に捧げる感情と共に鳴り響くであらう。そして、世界は、國外在住の全ドイツ人、特にイタリア在住のドイツ人の歡喜の聲をも聞くであらう。相互の尊敬と共同の高い理想から生れた二人の男の友情は、彼等によつて指導せられる民族間の友情以上の雄辯で輝やかしきものとして現れることが出来るのである。

確かに、イタリアとドイツ間の友情は、退屈な代議制的な商議や、民主制的な多數決から發生した條約を基礎とするものではない。この友情は過去の時代の有名無實の文書ではなく、生命の溢れた實現であり、二つの國民の指導者によつて創造され、暴風雨の時代に彼等によつて

固められた友情である。正しき男性の友情の中からこそ、眞の民族的友情が生まれたのである。

昨年秋イタリア・ファシスト黨首のドイツに滞留した、あの時のことは、忘れることが出来ない。至上權の所有者たる、かの元帥が、イタリア最初のファシストたる彼が、ベルリンに於けるオリンピック・スタジアムの五月の野でなした、あの驚歎すべき演説は、ドイツ人の心に永久に刻みつけられた。彼がイタリアとアビシニアとの戦争のときに於て、ドイツ民族の示した好宜的、友情的態度を決して忘れないだらうと、彼の民族の代辯者として、力強く心の底からドイツに對する感謝を述べたときには、彼の周圍に天に冲するやうな歡聲が擧つた。それから半年後、即ち數週間前、オーストリアのドイツ國家への復歸に當つて、イタリア民族がわれらの國民的利害について示した理解に對しては、われらドイツ人の誠に感謝に堪へないところであつた。その感謝の念を表はすために、われらの總統は、全國民の心の表白として、彼の歴史的電文をファシスト黨首宛發送したのである。かくしてわが民族は、最近の歴史の決定的な時に於て、ベニト・ムッソリーニとアドルフ・ヒトラーの間に結ばれた、かの友情をよく維持したのである。この友情の結びつきは永久に存続するであらう。イタリアとドイツとを指導する二人の男の意志に従つて、それは永遠に存続されなければならない。

ファシズムと國民社會主義とは相互に信頼し合つてゐる。それは彼等が外面的な形式に於て共通するところを多く持つてゐる、といふ理由からばかりではない。その結びつきの根源は、はるかに深い所にあるのである。それは、ボルシェヴィズムの破壊、憎惡と猜忌、階級的高慢と利害政治とに對する防衛のために、かの二つの光榮ある革命の解放的暴風雨ののちに、同一の地盤から、民族と故郷に對する感情から發生したものである。國民の運命を救済した男たち、民族と祖國に對する、同様に熱烈なる意志と、膽力と決意と、賢明なる政治家的思想と行動と、そして無類の人格的權威とを共に持つ、かの男たちに指導されたる兩國民のうちには、非民族的組織を振盪した創造的な力が再び目覺めたのである。

兩國民は國民的原理に従つて、その經濟を新たに建て直し、發展せしめた。北方に於ても、南方に於ても、勞働と仕事は工場にあつて、能力ある創造的人間が凡ゆる經濟的計畫の中心に居るのである。そのいづれに於ても、個々の人はそれぞれ自己の分野に於て、自己を精一杯生かしつつ、全體に奉仕する一成員として、大きな政治的に規定された民族共同體の必要の中に編入される、といふ具合に構成されてゐる。したがつてイタリアとドイツは、景氣の急變や世界の投機的な術策からも解放されることが出來たのである。彼等は大胆に、決然として運命を

自己のうちに收めたのである。兩民族は、平和的經濟交易によつて、その生産物を交換し、鐵の如き努力と不動の決意とを以て、土地の財寶を國の幸福のために利用する。兩國民は、絶えず技術と科學とを取り入れることによつて、農地面積を擴大し、豊沃ならしめ、新材料を生産し、更に生産源泉を開拓し、かくして國民の國防力及び經濟力を強化した。

ドイツとイタリアとの經濟關係、それはオーストリアのドイツ國家への編入以來は、兩國にとつて、更に大きな可能性の道を開いたのであるが、それは、高度に發達した經濟と、嚴格に國民的に規定された經濟政策とを持つところの強國間の貿易は、最も繁榮するものであることの注意を喚起する一つの例である。かくて、確固不動のローマ——ベルリン樞軸は、國民的利害は對立する必要なきこと、寧ろ、理解あり友情ある共同作業は、世界平和に對する最も確實なる保證人だ、といふことを雄辯に物語る一つの證據である。

(一九三八、四月「ゲラルキア」誌所載)

大ドイツの國家記念日

本日の正午、われらの總統が、この場所で、演説したとき、太陽は密雲をつき破つて、われらにその暖い春の光を投げかけてくれた。この太陽の輝きが密雲を突き破つて流れ出たと同じやうに、また初めて、ドイツから暗雲は、跡形もなく拭ひ拂はれた。ドイツの隅々の土地に、自由の燈火のとぼるまで、一人の男は松明を、信念の法燈を、燃やし續けて來たのである。

今や再び松明は燃え續けてゐる。次にわれらは過去に對し感謝を捧げ、未來に對し義務を負ふものである。われらの中央には、白樺の木、解放された東部邊疆から齎された力強い樞の樹が立つてゐる。

この白樺の木は、幼い小さい木のときに、かの第一ドイツ國家、ドイツ國民の國家を見た。この木は、われらの民族と、われらの祖國の成長と運命について、象徴的に物語つてくれる。かれは第一國家の没落するのを見た。その國家は、内面的な力と強度に缺けてゐたばかりでなく、互ひに相剋を續けた無數の王朝に分裂してゐた。それでも外面的には、辛うじて、國家の

版圖は保つてゐた。しかし國內には、種々の勢力が争ひ合つてゐた。ドイツの周圍は、暗闇となつた。

この木は、第二回目に、われらの祖國に太陽の登るのを見た。第二國家は成立した。對外的な力と強度を持つた國家が、ドイツの人々の歡呼の聲に迎へられて、ヴェルサイユの鏡の間に於て建設された。しかも、嘗てそこで生み出されたこの第二國家は、ヴェルサイユの鏡の間で、粉々に打ち砕かれた。それは必然的に碎かれねばならなかつたのだ。なぜならば、第二國家には、結合、統一が缺けて居り、それと同時に最後の試練に堪へるだけの最高の力が缺けてゐたからである。

空位の時期がやつて來た。この白樺の木は、この空位の時期を、當初より崩壞の表徴を持つてゐた分散すべき國家だと見てゐた。無数の黨派や階級や身分は分裂して行き、ドイツ民族を分散せしめた。兄は弟と鬭争を行ひ、人々は五里夢中の間に行動した。極度の自我が前面に押し出され、決定的なのは、多數といふものであつた。

かくして、來るべきものが來た。この國家は没落と崩壞に向つて、猛烈な前進を起した。われらドイツ人たちは、この國家が、ボルシェヴィスト的無政府的互解の、戦火と硝煙の中で、

將に滅びんとしたことを、心から悲しく、そしてまた眞剣な氣持で感じたのである。

われらの歴史のこの暗闇にあつて、總統は、星辰の中から、われらの世界觀の輝かしき理念を持ち來たり、その理念に燈火をつけ、そして最後に、かの一九三三年一月三十日、空位の時期に、終末を與へたのである。新興國家、第三國家、國民社會主義的國家、アドルフ・ヒトラーの國家は、炎々たる焰を上げて、燃え上つた。

民族がびつたりと鍛接され、鍊接されてゐるときにのみ、一國家は永遠の存立を保ち得、一國民は強力であり得るといふことを、この國家の統率は、教示してくれた。第一の前提と洞察は、即ち、この第三國家の基礎は民族協同體なり、といふことであつた。

民族は、諸々の黨派や身分や階級の全般に亘つて包括された。誰しも、民族は永遠なりといふ認識を獲得した。民族のみが決定的であり、その繁榮と不幸こそ、指導の正しい方向であらねばならないといふ、この認識は、國家の絶對安定を守るための根柢である。國民への奉仕、民族への奉仕は何よりも貴重である。

われらが、ドイツの或る地方は無敵なりといふならば、それは決して空辭ではない。今日では、二つの組織が、民族の最高の統一を物語つてゐる。總統の意志よりして成立した、新成防

禦力は、彼の力によつて鍛へられ、彼の決断によつて、形成された。この軍隊の統一の前提としては、ナチス黨があり、政治的統一の前提としては、ドイツ國がある。

黨派といふものは無敵にして、且つ、ドイツ民族に永遠性を賦與するところの政治的統一意志の擔ひ手である。防禦力の統一、黨派の統一は、民族を新しく形成するための前提であり、そして、第一國家が崩壊して以來、善良なるドイツ人たちが、育み續けて來たかの夢、東部邊疆を再び獲得し、オーストリアの兄弟と共に、一國家を作りたい！といふ、かの夢を、實現せしめたほど強烈な光を放つ、あの力を、第三國家に賦與するための前提であつた。

この白樺の木は、この統一せる大ドイツ國家の象徴として、われらの前に立つてゐる。今や彼は、その最後の運命を経験しつつ、ドイツ民族協同體の記念日に、幸福の木として、光り輝いてゐる。この木と一緒に、東部邊疆の兄弟たちは、彼等の願望、心からの願望を、われらのところへ送つて來た。彼等はこの木と一緒に、その國家への復歸の歡呼を送つて來た。

この木と一緒に、彼等は、この國家を創つた人に對する、量るべからざる感謝の情を送つて來た。「われらはもはや、數百萬のドイツ人に壓迫されるのを我慢はしない。理由は、單に彼等がドイツ人であるからだ！」といふ總統の言葉は、全ドイツ人にとつて極めて重要であると

いふことを、世界は認めてゐる。われらは、ドイツはその同胞に對してのみ責任を持ち得るといふことを、世界に示した。ドイツ人が、ドイツ人のもとに來るときは、些かの民族問題はない、ドイツの爲すべきことはただこれだけである。

われらが四月十日に發表した、ドイツは一つなり、ドイツは強力にして無敵なり！といふかのドイツ主義の絶對的信條が、このことを示して來た。われらの所有してゐるものに對しては、われらは、最大の犠牲をも辭さない準備が出來てゐる。

ドイツの強さは非常に巨大なものとなつてゐる。それは第三國家になつた數年間、嘗てないほど、勤勞が行はれたからである。かくしてわれらは、新しき故郷を作り上げた。かくしてわれらは、ドイツを安全ならしめるに必要な、新防禦力、ドイツ労働戦線、その他あらゆる組織を作つた。

この事業の無双の成果の中から、われらはただひとつ、更に事業を續行する義務を引き出すことが出来る。われらが、この年々、ドイツの安全を保證しようと、準備してゐたときに、われらはまた、この安全は、益々強化されねばならないといふことを知つたのである。われらの圍りの民族は、如何にして武装するか、如何にして、全世界から飛行機を買ふかを、われらは

見、戦争に對する不信を堆積するのを見てゐる。そして、自分に、なぜさうなるのかと問うてみた。

ドイツは、ドイツだけで充分である。ドイツは、安全にされるならば、それ以外の何物をも、生活と勤勞によつて欲しようとは思はない。ドイツの創る價値は、ドイツ民族に有利なものとならなければならない。國民の安全を實現すために、凡ゆることを行ふといふ誓約、われらはこれを、ここで宣言したのである。そしてここへ來ることの出來ない、他のすべての人々に對しても、各ドイツ人の義務は、その民族の最高の献身である、といふことを表明して置かうと思ふ。

われらが、この數年間、勤勞を行ひ得たのは、ドイツ労働者の労働に價値と榮光とが認められ、彼等が完全に、民族と國民の中に入つて整頓されたからであつた。

他の國や他の國民にあつては、五月一日は労働も休む。しかし、それはわれらとは、別な意味を持つのである。統一の表徴、民族協同體の表徴ではなく、階級闘争の表徴、骨肉敵視の表徴に於てである。

彼等の周圍にあるのは、困窮、同盟罷業、失業、階級闘争、階級敵視である。このやうな國

に於ては今日到るところに、警察が出勤し、軍隊が待機してゐる。わが國に於ても、嘗てはこのことを體驗したことがあつた。

しかし、國民社會主義的國家に於ては、全民族は祝福して休業し、互ひに嬉々としてゐる。軍人も、人々と一緒に祝つてゐる。この民族の息子として、彼は労働と歡喜に參與してゐるのである。かくして、民族共同體は成長して行く。この日を重ねる毎に、人々が民族共同體の最高の幸福よりも、より一層樂しみ得るやうな、偉大にして榮光あるものは何もない。民族協同體を保持し、祝福するために働くといふことは、來るべき年の合言葉である。

この合言葉を以て、われらは、この暗い夜の闇の中に立つてゐる人々と手を結び、そして、大氣を通じて、われらと結ばれた人々と共に、總統への熱き感謝を捧げるものである。われらは、彼が何を、われらに贈つてくれたかを知つてゐる。この統一といふ高價な贈り物こそ、彼の最初からの事業であつたといふことを、われらは知つてゐる。

今日再び、東部邊疆が、國家の礎石となつたといふことを、われらは、深く彼に負ふものである。彼は再びわれらに、信念と期待と自由と名譽を與へてくれた。アドルフ・ヒトラーは、最も激しい窮乏から、その民族を輝かしい光のもとに持ち上げ、窮乏から歡喜へ、無力から強

力へと持ち上げた。ドイツは再び偉大となつた。ドイツは再び美しくなつた。ドイツは再び統一あるものとなつたのである。

(一九三八、五、一、ルストガルテンにて)

四ヶ年計畫の課題

第二次四ヶ年計畫の問題とするところは何であるか、何故、總統は第二次四ヶ年計畫なるものを、ドイツ民族に課せんとするか、この點に就いては、一點の疑點を残さざるほど明確に、總統がニュールンベルグに於て宣明してゐる。總統は、これが完遂を余に委嘱した。全ドイツ民族に對して、本日余はここに、協力一致、以つてこの課題解決に、最大の美果を收むべき方を指示しようと思ふ。

第二次四ヶ年計畫とは抑々何であるか。余は、その目標とするところを、ただ一つの根本命題に要約しよう。ドイツの榮譽の確保とドイツの生命の安固、即ちこれである。

まことに明確なる目標である。今日ドイツの生命とドイツの榮譽とが如何なる程度に確保されてゐるかをわれらは知る。しかしてまた、それらが第二次四ヶ年計畫を通じて、ドイツ國家の經濟力擴充強化により、未來永劫、盤石の基礎の上に置かれねばならぬことを知る。

余の本日の演説の目的は、余の考へ、意圖するところを説明するにある。われら國民社會主

義労働者黨員は、萬事を、民族の面前に於て、民族と共に、しかして民族の只中に立つて、遂行することを信条とする。故に余は本日ここに、ドイツ民族に對し、如何なる方途によつて協力することが出来るか、また協力せねばならぬか、といふ點を説明しようと思ふ。余の有する全權は、總力を結集し、それを偉大なる、この國家目標達成に専ら差向けよ、との總統の委囑に基いてゐる。

先づ、今日の現状から話を進める。第一次四ヶ年計畫は實に大いなる業績を擧げた。ドイツ國家が再武裝の自由に奪還し、ドイツ國家が、今日元通りに意志の鐵壁と新生國防軍の力によつて守られてゐる、といふこの事實が何を意味してゐるかは、われら一人残らず知つて居り、全世界も亦それを知つてゐる。

總統が、ドイツ農民再建の大いなる闘争を叫び掛けた、あの當時の打ちひしがれた農業状態を、誰か想ひ起さないものがあらうか。しかるに今日農民は再び自己の田畑を確保して、安居樂業してゐる。この再建闘争と並行して、未だ嘗て、如何なる民族も戦つたことのない強烈なる労働獲得闘争が戦はれた。七百萬に垂んとする失業者に、仕事とパンを與へなければならなかつたのであるが、この問題も殆ど完全に解決されてゐる。

國內の人々が、疲れ切つた身を戸口から戸口へ運んでゐた、あの當時の、想ひ出しても身慄ひするやうな失業苦を、誰か想ひ起さないものがあらうか。當時は、朝になると又希望を抱いて出掛けて行く——ところが、夕になると定つて手ぶらで暗い氣持で歸つて來る、といふ風であつた。しかるに、今日では數百萬の人々は、再び職に就き、パンを得てゐる。經濟界は活況を呈し始め、工場は續々再び作業を開始し、壊れかかつた工場の、開けたまゝの窓から風が吹き通してゐる、といつた状態は克服された。到る處に、再び動輪の唸りが聞かれ、到る處にハシマーの響が聞かれる。しかし就中、この點こそ根本であるが、ドイツの自由とドイツの榮譽とが、過ぐる四ヶ年間に恢復されたのである。

かくて、ドイツ史の最も悲惨なる一章は閉ぢられた。ドイツの汚辱と不名譽、ドイツの逼迫と窮乏の頁は引き裂かれた。新しき章は、自由と榮譽、これこそ第三國家の基礎である、といふ根本命題を以つて開かれた。

したがつて、これら内政上の成果に、外交上の成功が隨伴したことは、また以つて當然のことであつた。嘗てドイツは、不和と階級闘争によつて國內が分裂し、そのために無力化し、列強は寄つてたかつてドイツを苦しめ、ドイツは全歐洲の債務奴隸であつた。しかるに、今日に

あつては、ドイツは國內が一致團結、強力にして國防力充實、再び全世界が、その存在を無視し得ざる強國となつてゐるのである。

經濟の領域に於て、偉大なる業績が達成されたことは、今述べた通りである。だが、更に一層業績を擧げねばならぬのも亦、この經濟の領域である。ドイツの經濟はもつと強化せねばならぬ。ドイツを他國依存から脱却せしめねばならぬ。過去幾年かの間に、この經濟の領域ほど健康さを取り戻した領域は他にない。實にヴェルサイユに始まつて、ドイツの衰退は斷ち難き絆の如く綿々と續いて、完全なる經濟的窮乏と荒廢を招來し、遂には窮迫の極、悲慘の極に立ち至つた。われらは數年間、その塗炭の苦しみを生き抜き、今日漸く、その慘苦の一部分を忘れ得るまでになつた。蓋し、第一次四ヶ年計畫の業績は大いに擧がり、過ぎし惡夢の時代は遙か遠方に遠のき、われらはもはや、思ふだに慄然たる過去の、あの時代を想ひ出さなくともいい、また想ひ出したくもない状態となつたからである。とはいへ、この事實は絶えず繰返して指摘されねばならぬ。蓋しそれは、かかる變革を成し遂げるために總統が、巨大なる運動が爲さねばならなかつた事柄を、各人銘々、はつきりと腦裡に刻んでゐなければならぬからである。ユダヤ人に搾り取られ、マルクス主義の階級意識に引きちぎられたドイツの經濟は、ドイツ

の労働者を悲慘と失業に突き落した。その結果、ドイツの労働能力は、凡ゆる分野に於て荒廢された。したがつて、それが再建には、巨大な努力が必要であつたのである。

再建の運動は何を約束し、そして第一次の四ヶ年間に何を得たのであらうか。それは何を爲し遂げたのであらうか。この點に就て、われらは常に誇らかに斷言することが出来る。實に奇蹟である、偉大なるドイツの奇蹟が過ぎし四四年間に起つたのである。昔と今、それは深き淵を以て隔てられてゐる。この四四年間に於て、ドイツ民族の打つて一丸となつた力によつて、アドルフ・ヒトラーの天才的指導によつて、黨指導部と國家指導部との緊密な協力によつて、實に大きな事業が成就されたのである。

しかしながら、われらは、この成功に安んずることは許されぬ。われらは、更に前進し、總力を發揮すべき義務がある。

世界の政治經濟情勢は、ドイツに一刻の偷安をも許さぬ。この點をわれらは、はつきりと認識して居らねばならぬ。今日に於ても尙われらには日向ひなたの場所が與へられて居らぬことを知らねばならぬ。自ら助けられない限り、誰一人進んでわれらを助けてくれる者もないことを知らねばならぬ。われらは、われら自身の力によつて、これまでに成つたのである。今後も亦われらは

われら自身の力によつて進むのである。敵意を籠めた報道や中傷が、如何に屢々、ドイツの實情を歪曲して述べようとも、それによつて妨げられるやうなわれらではない。現在ドイツ民族の状態は甚だ悪化してゐる。だから第二次四ヶ年計畫を發布するのだ、などと書かれたものを讀むこともあらう。またドイツはすべての原料を持たないが、ドイツは原料を手に入れることを欲してゐる、ドイツは世界の資源の分前を欲してゐる、と非難の意味をこめて述べたてる者もある。これに對して余は答へる。然り、われらは分前を欲する、しかして將來分前を得るであらうと。

それは非難の理由たり得るであらうか。われらが生活手段を充分に生産し得ないことを以つて彼等はわれらを非難せんと欲するののか。われらが國內に有する原料が餘りにも少過ぎる、といふことは寧ろ不名譽なことではないか。世界は、彼等がわれらに對して拒んでゐるものを、われらが平和的方法によつて取り戻さうとしてゐることに、感謝すべきである。

われらは植民地を持たぬ。不幸なりし敗戦ののち、彼等はわれらから植民地を取り上げたのである。彼等はわれらに次の如く説明した。即ち、原料が欲しければ御隨意にお買ひ下さい。そして金で御拂ひ下さいと。確かにわれらは、彼等が金を、一切合財搔つ浚つて行くやうなこ

とをしなかつたなら、進んで金で支拂つたであらう。ドイツを身ぐるみ剥いで、血も出ないやうにしてから、さて、植民地が欲しければ金で買ひなさい、とはまるで人を嘲弄するものだ。金を返して呉れ、そしたらわれらは金で拂つてやらう。

世界が、ドイツに對して拒まんと欲するものを、われらは出来る限り、われら自身の力によつて作り出さうと欲する。そのためにわれらは全力を傾けてゐる。これがドイツの弱さの現れであるならば、彼等は直ちにさうした判斷を訂正せねばならぬ破目になるであらう。

われらドイツ人は、この數年間、同胞民族の育成に努めて來た。植民地を持たないとはいへ原料を持たないとはいへ、ドイツは、あらゆる障害に拘らず、秩序と知足と文化の國である。われらは、それをはつきりと辨へてゐる。總統は、この點をニュールンベルグで、次の如く宣明した。即ち、如何にあらん限りの力を傾注するも、一切の生活手段をドイツ國內で生産することは不可能である。今やドイツには、一平方軒に百三十六人生活してゐる。植民地のたつた一かけらでも持てば、——他國は有り剩るほど持つてゐるが——われらは原料不足、食糧不足を口にしないであらう。神はわれらに今日の如きドイツを與へられた。故にわれらは出来る限りよくやつて行かねばならぬ。

われらは、過ぎし數年間、時々見舞つた逼迫の原因を知つてゐる。何故、すべての生活手段が常に豊富に與へられないか、その理由を知つてゐる。この點に就いても總統は宣明した。即ち數百萬の人間に再び仕事を與へ、以つてかれらが再び奉仕出来るやうにし、その奉仕によつて生活手段を購ひ得るやうにすることが出来た好運が、われらに與へられたからである。そのため消費の増加が生じ、この消費は、それを充足せしめることは容易でなかつたが、しかし今日まで充足せしめられて來た。

しかし、今後はどうなるであらうか。國內の農地を極力増加せしめても、それからは極く僅かしか生産することが出来ないであらう。勿論、われらは更に更に、生産増加に努めるであらう。國家食糧團ナショナル・フーズ・ボーズに向つて、ドイツの土地の最後の一片までの利用に、全力を傾注するやうに呼びかけるであらう。われらは更に、耕地改善を圖り、肥料増投によつて生産力を高め、以つて生産額の増加を圖るであらう。更に又、組織を改善して、生産者から消費者への物資の配給を一層迅速、且つ圓滑ならしめるであらう。しかしながら、これら一切の手段を講ずるも、現在の需給の懸隔を完全に解消することは出来ないであらう。

ドイツ國內の收穫を常に確保することが、最も重要な課題の一つであることは云ふまでも

ない。現にわれらが見てゐる如く、勞働奉仕團ラウヴンツ・エーリントを日々收穫作業に差し向け、收穫物を倉庫に搬納する方法は、既にこの分野に於ける各種所管當局の協力によつて、成功してゐるのである。ドイツの農業經營者及び農民は、何よりも先づ次の一事を、即ち、ドイツのパンの穀物は、全民族の扶養維持を確保するものであるが故に、實に神聖なる財産である、といふことをはつきり理解しなければならぬ。一體、パンの原料たる穀物以上に民族扶養上、重要なものがあつたであらうか。ドイツ農民諸君よ、わがドイツの土地の、この神聖な寶を扱ふには、慎重の上にも慎重を期せられたいのである。

肉類が缺乏するであらう。食糧の、この方面に於ても亦、時々逼迫を來たすことを豫想せねばならぬといふことを聞かされる。この方面に於ても、あらゆる對策が講ぜられるであらう。われらは、飼畜増加のため、根本條件の改善強化を圖るであらう。しかし、先づ着目すべきものに、獸肉以外に優秀な物がある。即ち魚肉がある、したがつてわれらは、獸肉が逼迫する場合には、魚肉を充分に供給するやうに努めるであらう。

パンと肉はさうするとしても、なほ脂肪類の供給が甚だしく不足する。この脂肪類に就いては外國の需要が實に大きく、従つて各人に對し、高度の消費制限を必要とするであらう。しか

しながら、われらは、この點に就いても生産増加対策を怠らないであらう。今日のドイツは、屑を捨てていいほど豊かではなく、これらの屑は集めて、都市の脂肪再製所に送らねばならぬ状態であることを、各人が理解し、それに協力するならば、脂肪類に關する状態も改善されるであらう。

しかし、最も重要にして決定的な點は、貧しき者及び特に重労働者に對して、彼等が生活力維持と労働のために必要とする物を、萬難を排して確實に供給する、といふことである。萬難を排して、貧しき者に脂肪類を安く豊富に供給せねばならぬ、といふ總統の宣言は、余にとつて神聖な命令であり、それは萬難を排して完遂されるであらう。われらは、この事業を、購入組織を通じて、切符なしで遂行することが出来るであらう。各人が充分、自肅自戒する場合には特にさうである。決定的な點は、各人が満ち足り、一人の飢ゆる者もないやうにする、といふことである。現在諸君に余から希望するところは、ただこれだけである。

偉大なる事業を達成せんと欲するならば、須く各人が、若干の制限を甘受しなければならぬことは自明の理である。この點に就いては、余はドイツの家庭の主婦に訴へる。主婦の双肩には大きい責任がかかつてゐる。主婦は、先づ第一に榮養を献立表に盛らねばならぬが、それは

季節々に應じたもの、手許にあるもの、自國の生産を昂めるやうなものでなければならぬ。その時期に、自然が買いでくれぬやうな物を買つたり、手に入れたがつたりするのは、罪である。立派な臺所奉行は、特に、この點に氣をつけて貰ひたい。以前には、冬期、態々舶來の柔い野菜を食卓に上せたり、いつも、その時「無い物」を食卓に供することを以つて、禮儀と心得てゐたやうな風があつた。

しかし、われらは先づ第一に、わがドイツの土地が、われらに贈る物を用ひることにしよう。次にわれらは、その時々々の供給状態を適時に發表し、以つて主婦たちが豫め事情に通じ、今時どんな食べ物があるかを知つてゐるやうにしよう。さうすれば主婦たちは、幾時間も家を空けて街頭に待つ必要はなくなるであらう。

もう一度要約して述べよう。第一には、國內の生産物で間に合ふ食料を使ふことである。さうすれば逼迫は比較的容易に切り抜かれる。この種の逼迫は、普通、季節的原因によることが多い。しかし、それは他の方法では全然埋め合はせがつかぬ。卵、バター、牛乳の如きは、われらの力によつて、その生産を著しく左右することの出来ない品物である。鶏が多く卵を産む時季と、少ししか産まぬ時季がある。牝牛が乳をよく出す時季と、出さぬ時季がある。これ

を自然が作つたのと違ふやうに作り直す能力は、不幸にして人智に恵まれてはゐない。牝鶏が卵を産みながらぬ時に、卵を産まして取ることは、誰も出来ないものである。

この種の供給逼迫、この種の所謂食料不足の特徴は、今言つたやうなものである。足りないとなると、どうしても、それを手に入れねば気が済まぬやうな國民が、まだ居るのは遺憾である。彼等は卵を食べようと思はない時でも、手に入れようとする。卵飢饉だと聞くと、あつちこつち騒ぎ廻つて、卵を手に入れようとする。冬の眞最中に、麥稈帽子が少いだらうと、誰かが話してゐるのを今日小耳に挿んだら、もうその翌日は方々駆けつり廻つて、一打もの帽子を買ひ込む、といったのはその連中である。

一番重要なことは、廣汎な國民大衆が力一杯働くことが出来、物を創造することが出来るに足るだけの食料を入手する、といふことであり、この點に對しては余が責任を負ふ。余はそれを確實にするであらう。この點でも余はニールンベルグに於ける總統の言葉を想ひ出す。「脂肪類や卵が足りないといふことは、さう重大なことではない。それは我慢することが出来る。しかし、われらがドイツに失業者を無くしたといふこと、われらがこれら數百萬人を窮乏と無爲と墮落とから救つて、再び人間らしい人間としたこと、これこそ實に大いなるものである。」

にも拘らず僅か數個の卵、僅か一封度のバターを進んで我慢しようと思はぬ者は、ドイツ人たる資格がない。

原料の分野に於ても同様である。われらは勿論原料が不足してゐる。ここでも主な原因は、われらが現在植民地を持たぬ、といふことである。しかし余は、われらは現在植民地を持たぬ、といつてゐるだけでは到底満足することは出来ぬ。だからわれらは、努力し、われらの科學者及び技術家の發明の才能によつて、自ら原料を作り出す努力と工夫をしなければならぬのである。しかしてこれが、余及び余と共に責任を分つ人々の、達成しなければならぬ主要任務の一つである。各方面に今後まだまだ偉大なる業績を擧げ得る餘地がある。しかし余は、かく言ふと共に、この點に關し非常に多くの事業が、その一部分は非常に偉大なる業績が、經濟大巨にして國立銀行總裁たるシャハト氏、並に總統より任命された前所管長官ケブレル氏によつて果されたことを強調して、感謝の義務を果したいと思ふ。兩氏によつて偉大なる仕事が行はれて遂げられ、余はその業績を基礎として、これを完成せんとしてゐるのである。

しかし刻下當面の問題は、實驗並に大規模實驗の域を脱して、研究の成果を力強く實行に移すことである。近き將來に於て、國產物資からゴムを製造する工場、植物纖維から衣料纖維を

作る工場が建設されるであらう。諸外國がわれらを閉ぢ込めることは出来ぬ、われらを縛ることは出来ぬ、といふことを悟りさへしたならば、それらのものをすべて断念したであらう。

神のみぞ知らん、われらはもつと成果多き仕事を果すことが出来たであらうし、理性の世界經濟原則の世界に於て、貿易を行ひ、財貨を交換する方が、現在の如き氣狂ひの世界で自分ばかりを頼りにしてゐるより、われらにとつて事は確かに簡單であつたらう。

われらは、今や石炭からベンゼン及び鑛油を製出してゐる。秘密を一つ諸君に教へるが、われらは既に非常に芳香性のある石鹼さへ、石炭から製出することに成功してゐる。このほか、ドイツの天才、ドイツの發明精神、ドイツの實行力、ドイツの烟眼によつて製出に成功したのは、話さうと思へばまだいくらでもある。現在、これらの仕事に携はつてゐるものは、過去に於ける業績のために非常に高く尊敬せられてゐる。

次にわれらは、國內の鐵並に、その他の金屬鑛脈を一つ残らず開發するであらう。決定的に重要なことは、いつもながらただ、事を成就せんとする意思、これである。従來からの合金にして、原料不足のため供給逼迫してゐる場合には、われらは、同じやうに役立つ新しい合金を

作り出すであらう。輕金屬特にアルミニウムの分野に於ては、われらは、利用し得る原料を無盡藏に有してゐる。石炭と木材と金屬鑛石の三つは、將來原材料を國産化する工場が、依つて以つて立ち得る基盤となるであらう。

實に大いなる計畫である。巨大なる建物、巨大なる工場が建てられねばならぬ。それは即ち、ドイツは斷じて屈服するものではない、ドイツは飽くまで生き抜かんとする意思を捨てず、自らの運命を作つて行くものである、といふことを全世界に示さんがためである。かくしてこそ、更に今後のドイツ經濟の巨大な昇揚は達成されるであらう。しかしここで、これに参加する各人は、次の一事を忘れてはならぬ。即ち個々人のためではなく、少數人のためではなく、——すべての者のために、ドイツ民族のために、といふことを忘れてはならぬ。

それは、すべての者が協力するときのみ出来ることである。それは、各個人が古き觀念と手を切り、新しきものに對する怯懦を、決定的に克服するときのみ完遂され得るのである。しかし、その新しいものが、いつも舶來ものであつてはならぬ。ドイツの新しき物は、それらに匹敵するやうになるであらう。國産を誇れ！ドイツの頭腦とドイツの腕が作ったものを誇れ！ 矜高自負の精神を持て！ いつまでも外國の追隨に墮してはならぬ。自らを力強く信ぜ

よ、自らの國民を固く信ぜよ、これがわれらのスローガンでなければならぬ。

次に余は、財界に對して一言するならば、財界は大きな、非常に大きな責任を有してゐる。したがつて個々の企業經營者、實業家は、國家が發案し要求するのをいつも待つてゐるばかりであつてはならぬ。この事業を支持するために、自ら進んで方法手段を探究し、努力の出し惜しみをしてはならぬ。企業經營者諸君は、財界の自由なる創意といふことを常に言つてゐる。ここに創意を發揮すべき點がある。

全ドイツ民族は協働せねばならぬ、すべての者が共に相携へて事業に立ち向ひ、努力を傾けねばならぬ、と余は言ふが、この場合、一つの事柄をよく理解してゐなければならぬ。即ち四ヶ年間に、この計畫を完遂せんがためには、四ヶ年間に缺乏と逼迫状態を克服せんがためには、何かここに起らねばならぬ。しかし、その何かは獨りでにやつて來るものではない。われらが努力によつて、それを作り出さねばならぬ。作り出すものとして、一番必要なのは工場の新設である。建物であつて、それには勞働者、煉瓦、その他の建築材料が必要である。したがつて又、如何なる種類の建物がドイツ國刻下の急務であるかを、慎重考慮決定することが必要となつて來る。焦眉の急を要するものは就中、軍備に必要な建物、四ヶ年計畫遂行に必要な

な建物、勞働者の定住に必要な住宅であり、この他にも尙色々ある。したがつて、われらは急を要する程度により、或る順序を定めて、それに準據し、それに要する必要な前提條件を供給しなければならぬ。

わがドイツの總勞働力を結集して、情熱的に打ち込んで行くことがなければ、この事業はもう最初から不可能であらう。今日既にわれらは、如何にすれば勞働力不足を克服し得るか、といふ問題に頭を悩まさねばならぬやうな状態にある。各國民が色々違つた悩みを持つてゐるといふことは、この點にも現れる。われらの悩みは、充分な勞働力をどうして得るか、といふのである。他の國民の悩みは、どうして失業者に職を與へようか、といふのである。われらの悩みの方が確かに優れたものであると余は信ずる。

刻下の問題は、如何にして必要な勞働者を吸集するかである。ドイツの勞働者は、働いて働いて働き抜くときにのみ、何等の不和爭論を起さず、事業經營内が平穩であるときにのみ、われらが、この事業を完成するまで、朝から晩まで營々として物が製造されるときにのみ、初めて總統の、この計畫を支持してゐるのだ、といふことを、はつきりと理解して居らねばならぬ。勞働平和を維持することが刻下の必要事であることを、各人はよく理解して居らねばならぬ。

ぬ。工場内は喜びと創造の愉快が支配して居らねばならぬ。非難中傷は出て行け！ そんなものを容れる餘地はドイツにはないのである。

この事業を完成するために、われらは現在賃銀水準を高めることは出来ない。それは不可能である。余はこの點に關する總統の言葉を讀み上げよう。「賃銀を二割、四割、或ひは五割引上げることは、國家指導部及び經濟指導部がやらうとすれば造作なくやれたであらう。しかしながら、生産増加を伴はない賃銀引上げは、嘗て一度ドイツ民族が苦しめられた自己欺瞞である。賃銀を高める一方、出來れば労働時間を短縮する。即ち生産を制限するといふことは、國民社會主義的經濟思想からすれば、狂氣の沙汰である。蓋し、國民の賃銀總額は、消費され得る總生産物に配分されるからである。總収入が一割五分増加し、總生産額が一割五分減少すれば、この賃銀値上は、各個人の生計に何らの好影響も齎さず、却つて生産の減退のために、貨幣の完全なる減價を來たすであらう。しかしこれこそは、嘗つて一度われらが不名譽にも經驗したと同じ踊りであらう。」

わがドイツの労働者に、何故それが必要であるかといふことを、はつきり理解せしめる必要がある。如何なる場合にも賃銀問題に關し指導的立場に立ち、和解せしめ、經營とその平穩に

對して責任を負ふのが、國家より任命された者の任務であるが、それと同様に、ドイツ労働戰線は、その巨大なる全組織を擧げて、この計畫のために役立たしめなければならぬ。労働者に世界觀を叩き込むばかりでなく、絶えず彼等をして偉大なる目標に思ひを致さしめ、總統が彼等に要求するところを絶えずはつきり理解せしめ、ドイツを立派なものにするのは、彼等の双肩に懸つてゐることを知らしめねばならぬ。

ついでに一言するが、ドイツに於て建設の證明があり、スペインに於て破壊の證明が眼のあたりにあるにも拘らず、今日なほ共產主義を奉ずるが如き者は、もはや馬鹿者扱ひにして許すわけには行かぬ。さういふ人間は悪人であり、今後悪人たらんと欲するものであり、破壊を欲するものであり、建設などには見向きもしない人間である。

さて、われらは、固定せる賃銀を労働者に求めるが、これは、固定安定せる價格を前提とする。この點に關しても、われらは、われらの意思の全情熱を傾けて努力するであらう。總統は價格監督官に、古き國民社會主義労働者黨の闘士を任命した。余は同氏に必要な方針を與へ事情如何を問はず、如何なる價格騰貴をも阻止し、且つ必要な場合は、高價格を引下げる全權を賦與するであらう。現れた徴候を直ぐ、正しく、且つ見透しをつけて把握すること、これ

が最善の手段である。困難が近づきつつある、といふ徴候を適時に見て取らねばならぬ。困難を認識すれば、その困難は克服されるものである。

價格監督官は、その活動分野に横行する流行病を攻撃絶滅する全権を賦與されるであらう。流行病とは、現在のわれらの状態と同じ状態に於ては、どの民族にも付き纏つて害をなす流行病、根こそぎ絶滅されねばならぬ流行病、即ち、呪ふべき買溜めのことである。買溜めする者は自らの民族を汚し、自らの民族を害するものである。使用する以上の物を蓄藏する者は、それだけ他人から奪ひ取る者であり、非國民である。價格を吊り上げる者も同斷である。蓋し彼等は民族に對する、もつとひどい犯罪者であるからである。即ち、彼等は自己一身のことだけしか考へず——彼等にとつては自分の腹が神である——思ひを致さねばならぬ筈のドイツ民族のことを、少しも考へない者である。

價格監督官の任務は、絶えず凡ゆる價格を監視し、且つ繰返しこれを確定し、以つて價格として適正ならしめ、或ひはこれを私利私慾と絶縁せしめるやうに常に監督することであらう。やるからには斷乎として突進する。余はただ、かう言ふことが出来るだけである。即ち、景氣やドイツの繁榮を、私的的に利用せんとする如何なる企圖に對しても、余は敢へて峻烈斷乎

たる手段を以て、兎も角これを彈壓するものである。このことを余はドイツ民族に對して誓言する。

闇取引をやる者も、その仲間である。彼等も亦、これからは今までのやうに、簡單にはやれないことを覺悟すべきである。公定價格乃至は最高價格が決められると直ぐ、商品を買ひ惜しみ、商品を隠匿し、突如たる商品飢饉を出現せしめる者も、その仲間である。今日、或る商品が極めて圓滑に購入され得ることを見届け、明日公定價格乃至は最高價格が決められると、途端にその商品が姿を消してゐる、といふ事態を見たならば、余はその商品を検査せしめるであらう。われらは、さういふ蛆虫どもに對しては、商品を沒收するだけに止まらず、彼等の存在をも抹殺するであらう。何も、それを怪しむ必要はない、正に當然である。ドイツの財産を盗まうとする者、ドイツの財産を奪ひ去らんとする者に對して、われら、その財産を取り上げがこれをドイツ民族に返すのは、正に當然なことである。

この任務は達成されるに相違ない。なぜならば、われらがそれを欲するからであり、しかしわれらが國民社會主義労働者黨員であつて、われらの欲するところを完遂するだけの力を持つてゐるからである。したがつて悲觀は無用である。誰かが本氣で惡口を云はうと、それは全

然問題にならぬ。われら今までも悪口されて来たが、それでも活動して来たのである。活動、これだけが重要な問題である。多くの法令がお氣に召さぬとき、冷然と罵る者もあらう。だがしかし、法令は何處までも遵守せられねばならぬ。これが決定的な點である。

われらは、健全にして颯爽たる樂觀的精神を以つて事に當らねばならぬ。なぜなら、物事を作り上げて行くために必要とする清新にして、悦びに満ちた労働の力は、樂觀的精神のみがよくこれを供給するからである。われらは、わが民族を信頼する。われらは、わが民族が偉大なるものなることを知つて居り、偉大なる未來を有することを知つて居る。したがつてわれらは、この道を進まねばならぬことを知つてゐるのである。

以上述べて以つて余は、ここに最大の決定點に觸れよう。余は今日、ここに四ヶ年計畫の完遂を自己の任務として取り擧げる。それは即ち今日われらが零度の地位に立つてゐること、最下點に立つてゐることを意味する。今日の缺乏が最大である。それはわれらが押し切つて通らねばならぬ隘路である。半年經過すれば事態は微少ながら改善されるであらう。なぜなら、われらが實施する多くの方策が、半ヶ年のうちに作用を始めるからである。一年經過すれば、われらは二三段、階段を登つて居り、それから次々と登つて行くのである。決定的に重要な點は

余が、はつきりとした目標を諸君に示すことが出来、又さうすることを許される、といふことである。それは昔のジステム時代(註1)とは異なるのである。その時代には諸君は、犠牲に犠牲を要求され、繰り返し流血の運命に遭ひ、始終税金ばかり拂ひ、始終金ばかり出す運命にあり、しかもいつまでも、底の無い桶の境遇から抜け出すことが出来なかつた。當時にあつては、ほんの束の間だけ照した、それも甚だ覺束ない銀條のほかには、いつかはよくなるだらうといふ希望の光りは射さなかつたのである。しかるに今日に於て、われらは、はつきりした目標を目に見てゐる。即ち、目標は其處にある出發點は此處にある。此處をわれらは乗り切らねばならぬ。此處さへ乗り切れば、やがてわれらは自由の丘に出るのだ。實に明瞭そのものである。したがつて、余は本日、ここに於て空手形を振り出す必要は毫もない。余は、それが達成に努力する、確乎たる目標を示すことが出来るのである。さうだとすれば、肉が暫くの間少くしか手に入らぬ半ヶ年が一體何であるか。物資の購入が今暫くの間むづかしい半ヶ年が一體何であるか。それは決して究極的なものではない。それは、われらが、これから迎へんとする大いなるものに比すれば、笑ふべきほど小さなことである。

今日ドイツは物資が不足してゐる。或る種の原料品、食糧品が充分にはないが、この状態にわれらが満足せず、ドイツに物資が充分にないからこそ、われらは、その乏しき物の配分について、天才的な計畫を樹てようとするのだ、と叫ぶのが、余及び余の協働者の任務である。この點について余は一刻も無駄にしない。否、われらは努力し、考へ、活動し、配慮し、更に終始繰り返し、現在足りないものをドイツ民族のために、どうしたら作り出せるかに就いて工夫するのである。足りないものを作り出す。これがわれらの任務であり、この任務のためにわれらのエネルギーを傾注し、われらの決斷力を振はねばならぬ。この事業に國民擧つて協力せねばならぬ。なぜなら、わが民族は地球上の他の、民族よりも劣悪な状態にあつてはならないからである。足りないものを、限られた短日月の間に作り出さんかためには、われらは一時的な購買制限を甘んじて受けるであらう。

ここに於て、余は今一度すべての人に要請する。余の命令と手段に従はれたい。命令が萬人によつて遵守されることが必要である。萬人が衷心から進んで命令を遵守すること、各人が總統に手助けしてゐるのだ、ドイツに手助けしてゐるのだ、といふ感情を抱くこと、これがとりわけ必要である。各人は常に自分に向つて、成否は俺に懸つてゐるのだ、と言ひ聞かせねばな

らぬ。各人が、この點に心掛ければ、われらは乗り切ることが出来るのである。それこそ、わがドイツ民族の民族協同體に就いて、われらが全世界に示し得る最も立派な證明である。われらが命令を出し、措置を講ずるのは、或る人間を苦しめたり非難したりするためだ、といふ風に考へないで貰ひたい。さういふことは、われらは決してすることは出来ない。

何か行はねばならないとすれば、それは萬人のために役立つものでなければならぬ。誰かが壓迫される場合には、その者は、誰か自分以外の、或る者の利益になつてゐることを考へ、更に、究極には廻り廻つて自分自身の利益になる、といふことに思ひを致すべきである。その者はこの點をよく理解せねばならぬ。

最後に述べるが、民族の自由を達成し、國民の強力を確保するために、或る種の便益を斷念することは、決して大き過ぎる犠牲と見ることは出来ぬ。われらが強力に武備されて居れば居るだけ、われらの地位は安固であり、他國がわれらを襲ふ可能性は少くなるものである。總統及びこの席にあるわれらすべてのものは、われらすべての指導者は、われら自身が爲し又は與へる心構へのないやうなことを、諸君に望んでほらない。脂肪分を攝り過ぎると——肥満し過ぎる。余自身バターを減らして、二十封度體重を減らした。

われらは強力にして、自主獨往の國民を作り上げんと欲する。故に余は、今ここに諸君並に放送を聴く數百萬人に向つて協力を求めて叫ぶ。余は、先づ第一にすべての發明家、すべての經濟人に向つて、惜しみなき協力を求める。工夫し、研究し、實驗し、新しい示唆、新しい發明、新しい可能性をわれらに與へんことを。諸君は今までも、ドイツのために偉大なることを爲し遂げて來た。余はすべての企業及び經營者に訴へる。自己の利潤のみを考へず、強力にして自主獨往なる、全國家的なドイツ經濟を考へ、諸君の能力、諸君の優れた經驗、諸君の意思、諸君の實行力、諸君の創意を傾注せられんことを。余はドイツの勞働者に訴へる。成否の鍵は諸君に、何よりもまして諸君の手にある。もはや階級なるものは存在せざることを示し、諸君こそドイツの最も信頼するに足る息子なる實を示されんことを。余はドイツの農民に訴へる。農民諸君は國民の生命を維持する。諸君の責任は民族扶養であり、それは最も大きい責任である。扶養を安固ならしめ、パンを確保せしめよ。農民諸君、ドイツは數年前より諸君のために出来る限りのことを爲した。これに感謝し、今日これからドイツのために、出来る限りのことを盡せ。

余は國民社會主義勞働者黨並にそのすべての構成團體に、特別なる熱意を傾けて訴へる。諸

君が征服し、諸君が創造した、諸君の國家である。諸君に對して余は、諸君が鬭争時代の絶頂に示した如き努力傾注を期待する。生え抜きの黨員よ進め、黨の指導者たちよ立て、先頭には地方指導者が立て！ 民族を引き立てて進軍せよ、然らば事業は成功するであらう。國民社會主義運動は、不可能なるものではなく、決して失敗することはないことを證明するのだ。

全民族にも余は呼びかける。全力を發揮しつゝ前進せよ！ 諸君に新しき國家、新しき國民を創造せることにつき總統に感謝せよ！ 總統は余に困難なる職務を托した。余は何も出しやばつたわけではない。余は爲すべき仕事一杯ある。加ふるに經濟は余の専門ではない。しかし余は、この點は、はつきり言つて置くが、専門家としてではなく、優れた經濟人、優れた企業家としてではなくて、不屈の意思を以つて、わが民族の偉大さに對する燃ゆるが如き信念を以つて、熱烈なる情熱——これによつてのみ偉大なるものは創造されるのであるが——を傾け出来る限りのすべてを盡さんことを期してゐる。余は専門家としてこの任務に就いたものではない。總統は専ら國民社會主義勞働者黨員として余を、この職に就けたのである。國民社會主義勞働者黨の闘士として、總統の受命者として、國民社會主義勞働者黨の受命者として、余は現在ここに立つてゐるのであり、さういふものとして、この事業を完遂するであらう。

意思が分裂崩壊しない限り、世の中では何事も崩壊しない。しかし、意思が打ち破られない限り、その意思が打ち破らうと欲するもの以外の何物も打ち破られないのである。しかして余の背後には國家機關の人々があり、黨の指導者たちがあり、生え拔きの闘士たちがあり、地方指導者があり、われらの運動の支持者がある。彼等は外國新聞の報ずる如く、互に不一致とかテンデンバラバラの闘争をする、とかいふことは更になく、行動への意思に於て一致團結してゐるのである。

しかして、その中に一つのこと理解されてゐる。われらは、われら自身のためにのみ活動してゐるのではなくして、われらの後に來るものの幸福と安固のために、われらの子供の平和と幸福のために活動してゐるのである。子供たちには、われらよりもよき生活をさせねばならぬ。總統への信頼——これが最も決定的なものであるが——總統への信頼、われら相互の間の信頼、これがわれらの有する最大の資本である。全世界の金と雖も、それと同一の價值を有することが出來ず、それは、今日ドイツが依つて以つて生活してゐる、最も安固にして最も優れた本位でもある。

總統は諸君に向つて、不可能なることを要請しはしない。總統が要請するものは創造され得

るものである。なぜなら總統自身、常に創造して來た人であるからである。約束したことは、彼は守つて來た。今日多くの人は、總統は非常に困難な仕事を爲し、苦しみ、特に大きな悩みを持つてゐるに違ひない、總統は弱くなられるであらう、と考へてゐるが、さういふ人は、總統に眼を注げば、この人物が如何に活動し、思考し、如何なる生活を送つてゐるかを知るのであらう。われらの指導者たる彼は、われらのために活動してゐるのである。彼の心配を考へて見よ。全國民の運命を自分一人の肩に負つてゐる、彼の日夜を考へて見よ。多くの彼の決心に當つての恐しいほどの困難さを考へて見よ。國民の將來に對する、彼の巨大なる責任を考へて見よ。この人こそ諸君のために、この巨大なる負擔をしてゐるのである。何卒諸君は、この人のために、僅かばかりの負擔をする心構へになつて貰ひたい。

權力掌握前のわが國民、わがドイツから彼はどういふものを作り上げたか。なんとわれらを塗炭の窮乏から救つて、今日の高さまで高めたことか。彼の民族に對する忠誠が、あらゆる困難の克服を助けたことか。われらが住んでゐる時代は實に大いなる時代である。諸君は、それを共にするを許されてゐることに誇りを持て。あらゆる瑣末事を捨てよ。一切の利己心を捨てよ。大いなる時代は大いなる民族を要求する。諸君が大いなる民族なることを、實證を

以つて示せ。われらの偉大なる指導者アドルフ・ヒトラーを辱しめるな。

いま一言述べよう。各人はこの事業の成功のために自己が何を爲し得るか、何を寄與し得るか、を毎日検討せよ。それが總統に對するわれらの感謝であり、信頼であり、われらの總統に對する信倚であるであらう。總統はドイツ民族を信念喪失と自暴自棄の状態から、今日の、信念に燃ゆる状態に導き、以つてわれらを極めて強力なものとした。われらはドイツ民族の偉大なる使命なるものを信じてゐる。われらは總統のもとに於て、力の國家、榮譽の國民、自由の民族が成立するであらう、といふことを衷心より信じてゐる。これを現在に於けるスローガンたらしめよ。しかしてわれらは、事業を開始するこの時に當り、全能なるものに對する最大の熱烈なる信仰を籠めて、そのために祈念しよう。全能なる神よ、總統に恵みを垂れさせ給へ。總統の民族に恵みを垂れさせ給へ。總統の事業に恵みを垂れさせ給へ。

(一九三六、一〇、二八、シュポルト・パラストにて)

食糧の確保と四ヶ年計畫

三月二十三日余の發令した法規は、農業生産の増強によつて、ドイツ民族の食糧を出来る限りドイツ國內で確保することを目的とするものである。これらの法規に對して、ドイツ農民のみならず、全ドイツ經濟界及び全ドイツ民族によつて示された全國的贊同、また農業及び工業に見られる改新的、且つ強化された献身的精神によつて考へるに、われらは決して間違つた道を進んで來たのでないことが分るのである。

民族の食糧の確保は、武力政策的保證と相並んで、政治家の偉大なる平和工作に對する、また、國民の經濟的、社會的、文化的生活の改造に對する、更に又、國際關係の保安及び改善に對する最も重要な前提である。正にその故にこそ、國內の社會的平和並びに世界の平和のための決定的保證の前提を確立すべく、ドイツに於てわれらのなしつつある峻嚴なる統一的論理に對する理解と尊敬が、外國に於ても亦持たれることがいよ／＼要望されるのである。

農民は、民族共同體の内部に於て農民に相應する地位を與へられ、最も特殊の法規によつ

て、生産能力を完全に發揮するに必要な平穩の保證が再び與へられた。農民は、更に組織的法規によつて、その立場に於て他の職業階級と並んで、ドイツ民族の生命の戦ひに参加出来ることになつた。農民階級は、がつちりと組合を組織し、昨年度に於ては、凡ゆる村落を組織に引き入れ、昔の農業組合とは全く異つて、今や如何なる經營をも残す所なく包含してゐる。

今や、凡ゆるエネルギーを強力に高めることによつて新たに獲得されたこの闘争力を、新しき使命の達成の方向ける、といふことが必要である。遺憾なき生産力の發揮を尙幾分でも妨害する虞れあるものは過去數週間の間に拂拭された。今や余は、ドイツ農民は最零細農から最大の地主に至るまで凡て、與へられたる標語に従ひ、凡ゆる困難に抗して自己に課せられたるプログラムを遂行せんことを期待してゐる。個人經濟的な考へから、民族經濟の成果を危殆に瀕せしめるが如きは許されない。農業經營は、收穫増強の要求を意識的に取り擧げ、これを完遂し、以つて、彼等の生存の基礎を確保した總統に對する報恩の一部でも返さなければならぬ。生産の廣汎なる増強のための科學的、技術的前提は與へられてゐる。よく指導された經營の經驗は豊富に存在してゐる。余は、ドイツの郷土を耕す名譽を有する凡てのものに對して、かかる經驗を遺憾なく利用し、且つかかる經驗に従ふことを要求する。更に余は、家僕階

級の住居状態の改善のため、今日與へられてゐる可能性を遺憾なく實現せしむることを期待してゐる。といふのは、余は、過去の怠慢がこの方面に於てこそ改善せられなければならないのだ、といふことを知つてゐるからである。家僕も亦、自己の勞働の價値に對する生氣に溢れた感情を抱き、ドイツ民族のための重大なる課題を負ふ喜びを持たなければならない。

食料の確保の問題と共に、われらの凡ての課題は、なほ未解の問題として澤山残されてゐることは謂ふまでもないことである。しかし、緊急の課題の一つとして、日常のパンを確保することが先づ必要であつた。しかし、われらがそれのみに止まらず、更に他の領域をも、就中衣服や住宅問題を等閑に附してゐたものでないことは、四ヶ年計畫の進行過程に着手された多くの新生産方法、生産設備、及びわれらの住宅並びに植民政策的法規の最もよく證明するところである。

政治家は一般に如何なる時でも、かかる偉大なる課題の一つだけを他の課題から分離し、獨立したものとして考へ、またこれに着手することは許されない。例へば國民の武裝化或ひは食糧の確保、といふ課題が特に問題となつてゐるときでも、彼は常にそれを全經濟的聯關に於て取り擧げる。例へば、農業收益の増大を目的とする肥料價格の低下は、農業に對する一方的な

惠與として考へるべきではなく、また工業の一方的犠牲として見るべきでもない。この法規は農民と工業家に於けると同様に、窮極は、労働者に對して、日常のパンを同一の價格で——勞賃を變化せしめることなく——確保しようといふ、労働者に對する意味をも持つものである。このことは他の領域に於ても同様である。即ち、如何なる經濟法規の場合に於ても政治家は、その全經濟に對する、また特に労働者に對する効果を常に注意しなければならない。なぜならば、四ヶ年計畫は、總統の意志に從つて、社會的平和を基礎として遂行されるものであるが、その社會的平和は、部分的に達せられるものではないからである。社會的平和は常に、全民族の、農民並びに企業家、労働者の問題である。それは同様に、農業と工業、國內經濟と輸出貿易、勞賃と價格に關係する。

したがつて、國家の經濟政策上の法規を常に、ただ階級的、職業的利害の如き一面的利害からのみ批判せんとするが如きは、全く間違つてゐるのである。われらが、過去の制度によつて陥つた困難な状態からドイツ農民を救ひ出したのは、農民のためではなく、健全なる農民階級のみがよく全ドイツ民族の生命と自由を永遠に確保することが出来るためである。そして、同様に新しい法規や救助は、ただ農業に對する救助策といふが如きものではない。それは寧ろ、

民族の食糧確保のための全經濟的法規と考へらるべきである。農業はかくて爾餘の經濟部門と緊密に結びついてゐる。一つの民族經濟の健全にして永續的な繁榮は一つに、自國の農業收穫を以つて、出来るだけ國內の食糧需要を満たし得ることに、かかつてゐるのである。農業がこのやうな状態になれば、したがつてそれだけ、爾餘の經濟の永續的繁榮及び永續的安定の状態のための、重要な基礎が喪失するわけである。かくて農業收穫を増強し、そのための方法を準備することは、ひとり農民のみならず、全經濟界のもの、したがつてまた國家の指導部の人たちも亦、これが達成に最も關心を寄せてゐる課題である。

農業に課せられたる課題の完遂を可能ならしめ、容易ならしめるために必要な法規は、適宜充分實施されてゐる。今やドイツ農民は、自己に與へられたる新たな可能性を、全力を擧げて利用しなければならぬ。余は、農民の献身的精神に對しては、將來も亦何ら疑ひを持たない。かくて余は、一九三七年の收穫感謝祭には、總統に對して、食糧自由の上の、更に廣汎にして、高められたる進歩の報告をなし得ることを望むものである。

四ヶ年計畫と自治團體

ドイツ自治團體の秩序と、これによつて更新されたドイツの自治團體は、最近數年の間に、試験済みとなつた。しかして今やより大きな使命をも引受けることが出来るのである。ドイツ自治團體秩序の目的は、強い國家のうちに、強い自治團體をつくることである。これは恐らくまだ凡ゆる處で、完全に果されてゐるとは云へないであらう。しかし余は確信する。自治團體聯合構成の新秩序、或ひは自治團體内部の行政單位の運用に對する立法活動は、遠からず終末を告げ得るであらう。

しかし本日は諸君に向つて細かい自治團體の問題を詳論しようとしてゐるのではなく、四ヶ年計畫に於けるドイツ自治團體の立場を、余が如何に考へてゐるかを諸君に説明したいと思ふのである。總統は余にこの四ヶ年計畫の遂行を課したのであり、これは永い間、余の全活動力を休みなく要求するのである。

この四ヶ年計畫は政治的に見れば、全ドイツ國民の自由の基礎工作と確保のための、強力な

努力である。即ち、餘りに狭い生活基礎を、凡ゆる經濟的、技術的、精神的手段の導入によつて速かに擴大することに、關してゐるのである。これは摩擦なしには行はれ得ない。なぜなら強力な新しい需要が既に力強く動いてゐる經濟に今や、突き當つてゐるからである。この困難の存在によるならば、今日の狀態は、これまでの政治が直面した多くの狀態から區別され得ないのである。ただ如何にわれら國民社會主義者が、このやうな課題に取り掛かるか、といふ方法が新しいのである。これまで人は必要な生産増加を、經濟諸力の所謂自由活動に委ね、國家は精々現在あるものを分配するに止まつてゐた。國家はその上、所謂自癒傾向と將來に於ける自癒の完成とを望んだ。しかし現代ではこの自癒力の發生を、恐らく國家は干涉によつて妨害したのである。この方法は効果が無い。しかしてわれら國民社會主義者には見られぬところである。われらは困難の根本を掴み、危急それ自體の基礎を除くのを常とする。即ち徵候や外見によつてあちこち治さうとはしないのである。

わが四ヶ年計畫に於ては、農業及び工業生産の増進が第一である。しかしてこれは國家の凡ゆる手段を以つて行はれるであらう。國家自身が經營するのではなくて、國家は無制限の指導と形成をなし、自然發生的な經濟法則の完成を待つことをしないのである。われらはもはや、

經濟自身が處理しない經濟的事物のみを司るに止まらず、全國家、全國民に亘つて、計畫的經濟指導を遂行するのである。

この經濟指導と經濟振興に、自治團體は決定的な役割を持ち義務を負ふ。四ヶ年計畫に對する原料供給の困難が需要の増加によつて、なほ一層ひどくなるやうな處では、諸君は例へば支出を抑制しなければならぬのである。總統はその見透しの廣い政治に於て、ドイツの四都市を最大規模の建築計畫によつて特別な町とし、發展させ、世界の中心地たらしめんと企てた。御承知の如く、この四都市とは首都ベルリンと運動の中心地ミュンヘンと黨大會の町ニュールンベルグと國際都市ハンブルグとである。この課題には特別の意義がある。これは必ず遂行されるであらう。しかし他の諸都市も同時に大建築計畫を遂行しなければならぬと信ずる必要はない。なぜなら首都ベルリンと所謂「猫や杓子」との間には、劃然たる區別が存在するからである。ここに於ては、自治團體は必要の順序に従はなければならぬであらう。如何なる場合にも最も重要な課題が、まづ第一に解決され得るために順序が必要だつたのである。今日は自治團體の物質供給活動の分に應じて、展開と運用によつて協力する方が、市役所や體育館や集團住宅を建てるよりも重要なのである。しかしこれも、いつもなら重要なのであり、その建

設は四ヶ年計畫後の一定期間になされる必要があるであらう。

更に余は、増税が停止してゐるのは、自治團體による一般的經濟促進の必然の結果と見てゐる。近年自治團體が既に、その財政の大部分を、再び健全な基礎に戻し、誤れる共和制時代（一九一九年——三三年）の多くの負債を支拂ふことに成功したといふ喜ばしい印象を余は持つてゐる。増税に導くやうな支出は抑制されなければならない。なぜなら全國民の財力が専ら大きな國家的課題に参加しなければならないからである。

反對に、自治團體が、定價の中に含まれる間接税を引下げるべしといふ内務大臣の指圖に従つて、凡てを賭けるならば、四ヶ年計畫の目的遂行に役立つであらう。特に農民にとつては、その生産戦には適當なエネルギーの保有といふ準備陣地に多く依存してゐる。といふのは彼等は結局まづ第一に、過勞な農婦の生活を輕減し、農民の物の乏しさから起る軋轢を和らげることを要求してゐるほどだからである。都會に於ては定價の引下げによつて、特に労働者家計の目に見える輕減がなされるべきであらう。

このより一般的な方策と相並んで、一聯の特殊課題が生ずる。自治團體は正にこの課題を擔つて、四ヶ年計畫に協力しなければならぬのである。四ヶ年計畫のより大きな企畫は、他の

財産によつて経費を賄はれるとしても、普通の金融機關、就中貯蓄銀行は、その信用政策によつて、多くの、より小さい企畫に無制限に、協力しなければならない。余はこの際まづ第一に農業に中程度の信用を許したらいと考へる。これなくしては急速な集約化の必要に當つて、會計が持てないのである。この問題こそ、從來種々の困難に遭遇して來たことを余は承知してゐる。しかし、余が自治團體の指導者に、公立貯蓄銀行の支配者の資格に於て、彼等の機關を絶えず前述の課題に役立てることを望んで、その通りになるならば、新しい統制に關する討論はすぐ終り、直ちに新しい秩序が公布されるであらう。次に、貧しい人の小額貯金が、必要な配慮を以つて管理され、投資されることが、當然留意されなければならないであらう。しかし他面、信用交付は國民經濟的見解に従つて、從來以上に活潑に行はねばならない。また信用を受けた者が、その經濟的創意に於て、強化促進されるやうに行はねばならない。

更に余は、自治團體は住宅政策の領域に於ても、大きな使命を果さなければならないといふ見解を持してゐる。官廳を建てるよりも、低廉な住宅の心配をする方が、一見しても重要である。その建築は材料の點から見て面倒が少い。なぜなら、これに於ては一般に、その土地で採れる無制限の、建築材料が用立てられるからである。ただここに於ては、勞働力の結合がなさ

れないことが注意されねばならない。この勞働力の結合は、他のさし迫つた建築に於ては必要なことである。總統によつて計畫された移植民事業の手始めの仕事をなすにも、このことは妥當する。これは四ヶ年計畫の遂行の後、成就されなければならない事業である。今や行爲によつて、この計畫が熱心に開始されることを明示しなければならぬと余は考へる。ただ大規模の事業はここ暫くの間、まだ控へて置かなければならない。

わが經濟狀態の調査によつてわれらは、更に古い習慣と便宜から、まだ無限に多くの原料が都市の廢物となつて浪費されてゐることを確認しなければならなかつた。大都市の塵芥の堆積を分解して得た使用し得る原料についての數字を讀むならば、實に驚くべきものがある。この價値ある原料を更に經濟の循環過程に引き出すことは、われら自身には出來ない。それ故自治團體がこの物の利用を合理的になすべく努力しなければならぬであらう。

大都市の廢物の他のものは、ドイツ國民の營養問題によつて利用される。余は特にこの事業の遂行を、國民社會主義厚生協會に委ねたのである。なぜなら同協會は、ドイツ家庭婦人に直接關係があることを立證したからである。この婦人の理解に、この事業の成功がかかつてゐるのである。七大都市には組織があり、よく活動してゐる。しかし他の處ではまだ困難はすつか

り除去され得なかつた。このやうに余に報告されてゐる。この領域に於ては事を圖式的に運び得ないことを余は知つてゐる。さて少し前に代理會長の黨員ワイデマン博士が余に、まだ新鮮な野菜の屑を集めて、無闇と家畜に食はせないで、これを共有地で乾かし、飼料として近所の豚飼ひにやるといふ案を提出した。どういふ風にしようかと余個人にとつては同じことである。この決定は、各自治團體に於ける特殊な事情に應じてなされなければならない。ただ余は、情性或ひは他の理由で、この事業から脱退する自治團體が一つもないやうに望む。百萬の豚に對する補助的飼料をつくることに成功すれば、大きな成果と云ふべきであり、確かに財産に變成したものと認めらるべきである。

昔から農業の遂行にはその逞しき興味を向けて來た農村の自治團體及び自治團體聯合は、他の多くの領域に於ても、生産戰に於ける國家の行政と國家の生産階級との方策を支持する便宜を有することになるであらう。他面に於て、自治團體が從來保護して來た使命を、將來國家によつて、より廣く手を加へられ、財政を賄はれんがために排除しようとするならば、それは余の耐へ得ざるところである。さて生産大臣は最近已むを得ず、國家豫算に於ける自治團體果樹栽培の請負金額を告知した。その理由は、自治團體が道路制度の新秩序に關して、若干意見を

異にしたため、從來通りに、この非常に大切な果樹栽培を續けることを拒否したからである。大藏大臣は余の同意によつて、この豫算告知を却下した。その理由は、このやうな問題で國家財産を持つて行くことは、全く不可能だからである。この使命を、熱意を以て再び引受け、續行することは、自治團體の義務である。

自治團體の四ヶ年計畫への特殊な参加の可能性を、いま全部擧げることが出来ない。しかしこの僅かな例を以つて満足したいと思ふ。これは共有財産の参加なしに行はれるとは限らないであらう。つましい市の會計係を驚かすには當らない。なぜなら余は途方もない要求を課さうとする考へは毛頭ないからである。しかし余は勿論次の如き見解を持つてゐる。即ち大きな目的は時々、一つ或ひは他の行政方策が、現代の根本原則的な經濟政策の促進的方策の後に退却すべきか否かについて、われらすべてが目的に達するまで細心の吟味をなす必要がある、といふ見解である。しかしてこのために、余は貨幣の介入の拒絶を承認することが出来ない。それは豫算局には貨幣が不足してゐるといふ單純な理由によるのである。

自治團體が四ヶ年計畫の仕事に參與するとすれば、ドイツ自治團體秩序がそれに課した使命を、とりも直さず國家目的の達成に協力することによつて、個々に果すのである。自治團體は

國家機關の他の多くの役所よりも、住民と密接な關係を持つてゐる立場として、黨との最も緊密な關係に於て、四ヶ年計畫の大きな目的のために、住民を獲得し、協力せしめる使命を持つのである。國民の必要と希望を、多くの場合、最初に體驗する自治團體の指導者は、また最も密接に國策の多くの一般的ならぬ成果を體驗するのである。しかし彼等は、不利がその權力範圍内にある限り、これを除き、しかして正にこのことによつて國家、活動の目的に對するその協力を示す義務を有するのである。このことは屢々必要となるであらう、なぜなら四ヶ年計畫の期間中は、必ずしも困難が避けられ得るものでないことが明瞭であるからである。われらはみな知つてゐる如く、ある生活必需品市場に於ては、押し合ひへし合ひが起つてゐる、しかし來月も同じことがそこそこで、また起る可能性があるのである。余はかういふ場合に遭遇したならば、事の次第を考へるやうに望むのである。事の次第を住民に明かにし、消費指導の志向を廣い見解で支持するのも、やはり自治團體指導者の課題となるであらう。しかし將來卵やバター、そして恐らく肉や或る品質の腸詰等が缺乏するのを防ぎ得なくても、日々のパンに對しては、余は完全に責任を持つことを、余は保證しなければならぬ。この方面に於ける凡ゆる懸念を不必要ならしめるために、凡ゆる方策が採られてゐるのである。

次には、貯藏品の消費を基礎として、一つ或ひは他の仕事は一時、短時間労働に移行しなければならぬことになるか、或ひは悲しい哉、もう既に永いこと續いてゐる纖維工業に於ける短時間労働を、もうこれ以上短く出来ないといふことになるのである。ここに於ても、個々の都市に對する策略とは何の關係もないので、鐵鑛の輸入が纖維原料の輸入よりも、一見して重要と思はしめるわが一般的情況の結果に關聯してゐるのである。しかしこの領域に於てこそ、われらは、ステープルファイバアの製造が進展し、短時間労働者問題が新しく規則だてられるならば、比較的早く労働の軽減をなすことが出来るのである。

價格形成の國家委員の困難な仕事に對する自治團體の協力もこの環境に屬する。永續的な觀察と緊密な個人的連結と展望的な計畫樹立とによつて、自治團體の指導者は、社會平和の維持のために直ちに決定を與へる余の組織の側の政策を支持しなければならぬであらう。自治團體自体は増税によつて價格を騰貴せしめてはならないことを、余は既に少し前に、明瞭に述べたのである。

ドイツ自治團體秩序によつて、新しい確乎たる基礎の上に据ゑられたドイツ自治團體のために、四ヶ年計畫に於ては、活動の廣い領域が提供されてゐる。自治創造者の時代に於ける如

く、今日再び自治團體は、國民の大目的のために、第一線に参加しなければならない。過去の残滓が片づけられた今日、ドイツ自治團體も、百三十年前の没落の際に於けると同じく、この試練に耐へて行くだらうと余は確信する。自治團體が國家の高い目的への參與に對する責任を證明すれば證明するほど、それだけ強く自治思想を求めてゐるわけなのである。しかしてこの自治思想は、ドイツ自治團體大會に際して、正に諸君の組織の中にその最も明瞭な表現を見出してゐるのである。

(一九三七、四、八、自治團體大會にて)

公益優先

ドイツ史上由緒ある町ハインベルグで、獵人大會を催すことは、新國家になつて始めて許されたのである。ブラウンシュウィクの當局と町と狩獵場は、大掛りな大會の準備をした。そして國立獵人會館の建設によつて、ブラウンシュウィクをドイツ獵人の中心地たらしめた。大なる興味と多くの愛着と斷乎たる意志とを以て、われらは今よりこの最初の大會を行はんとする。必要な事項を論ずるために、またドイツの獵人協會もここに於ては、われらの光榮ある運動の方向と目標に完全に協調するやうに、新國家が創つた現行法と並んで、組織の根本規則を決定するために、われらはここに集つたのである。政權獲得以來の二三年間に、ドイツの森林と獵獸に關しても多くのことがなされた。國家の確乎たる指導のもとに、今やわれらの獵獸の一層廣汎な種類維持、及びわれらの森林維持に役立つ法律が創られたのである。この兩者は不可分の關係にあるのである。

森林と原野と、しかしてそこに神によつて創られた生物は、個人のものではなくして、ドイ

ツ國民の共有財産である。われらの「公益優先」運動の最高原理を、われらは獵人の言葉に翻譯して「被造物の中に造物主を拜まんとする」のだと云ひたい。動物保護一般の領域に於てわれらが劃期的であつた如く、今日なほドイツの森林原野に棲息してゐる獵獸の世話を焼くのは當然のことであり、最大級にドイツ獵人の義務である。われらは神の攝理が最も高貴なるものをここに保持して來てくれたことを感謝する。しかしてわれらは、わが祖國が他の多くの國々に於けるが如く、ここに於ても涸渴せしめられることのないやうに配慮するのである。

われらの光榮あるドイツは、その自然の多様性を保持すべきである。なぜならばそれは激しい労働をするドイツ國民に、悦びと郷土愛と、しかして休養及び採集の可能性とを與へるからである。それは經濟的觀點から云つても高價な國民財産である。われらはここで、この觀點から問題を取り擧げる。昨年の冬期貧民救濟事業に對するドイツ獵人協會の力強い寄與のみが、國民に、獵獸が全ドイツ國民の營養に於て、如何に大切な要素をなしてゐるかを明瞭に示したのであると、余は思ふ。

獵人協會がこの大きな貧民救濟事業に大いに協力したことは自明である。しかして余はこのことのために獵人協會に特別に感謝する必要はない。また今年も彼等を召集するならば、彼等

は全力を盡すだらうと余は思ふ。ドイツ獵人協會がその義務を盡すならば、彼等は國民がそれぞれこの仕事を可能ならしめるために、各自の義務を盡してゐることを期待してよいのである。ここでも公益優先の原則が當てはまるのである。誰かがドイツの森林中の獵獸に草を食はせる各自の權利を否認することは許されない。獵獸もまた生きる權利を有してゐる。なぜなら神によつて創造されたものであるから。過度の要求による獵獸減少のために、狩獵が不可能になるやうなことがあつてはならない。

マルクス主義と共產主義は常に反狩獵的、反自然的であつた。既にこのために、われらの明瞭な態度が生じたのである。なぜなら共產主義は到る處に破壊しか齎さなかつたことを、われらは知つてゐる。

ここからまたわれらの森林と獵獸、そして狩獵に對する態度が生れたのである。われらはその中に、われらの義務を認識するのである。しかし、われらはまた諸組織と諸階級と國民各自から同じ義務と承認とを期待する。到る處で獲物を追ふことばかりが行はれてゐるとすれば、われらは如何にして自然を保護したらよいであらうか。ドイツの地上にある凡ての物に人工を加へなければならぬと信ずる人は、今や美としてわれらに與へられてゐる自然の泉を破壊す

る者である。このやうなものは必要でないと思ふものは、ただそのことによつて自分が既に極端な物質主義に陥つてゐることを示すのみである。理想に關聯する凡ゆることをわれらが否定するならば、國民もはや理想を擁護することなく、理想に向つて行動することが出来るであらう。それ故、人が何も役立たない凡ゆることを言葉で以つて絶滅しようと欲するならば、余はこれを拒否する。

たとへ銀行勘定にも振替へられず、現金にもならなくても、非常な効用を有する物が屢々あるのである。

余は諸組織に、また國民各自にも、われらの森林を神が親しくわれらに與へ給うた高價な財産として取扱ひ、そこに棲む價値ある生物を、愛情を以つて遇されんことを要請しなければならぬ。森林は人が歩き廻るために創られたものでなく、われらにとつて心の鎮靜と教化との場所とならなければならぬ。森林は全能者の本山たることを要請して然るべきである。

われらの祖先は狩獵に先立つて、常に勇氣だとか、用心深さだとか、肉體的熟練だとか、觀念的な思考だとか、隣人愛だとかいふ特別な精神的性格的態度をつくつたことを記憶して頂きたいのである。正にかくあるべきであり、かくあらねばならないのである。

ただ鐵砲を打ち、物質的な獲物のために獵獸を何百ポンドといふ風に算用する獵人は、排除されなければならない。われらは、まづ以つて狩獵の保護者たるべき義務を心に感じてゐるやうな獵人を必要とするのである。

それ故、余はドイツ獵人協會が「何物も個人のためではなく、萬事、全ドイツ國民のために」といふ國民社會主義の道義的理想を採擇せんことを要請する。

(一九三五、一一、三、狩獵祭にて)

世界經濟の新秩序

國際商業會議所は、六月末、ドイツの主都に於て、第九回會議を催すのである。經濟界の指導人物、専門家を、全世界から糾合したこの會議は、世界政策、世界經濟を肯定する緊張に直面して、全く別な意味を帯びて來る。

この度、ベルリンが開會の場所となつてゐることは、その商議が、世界經濟の建直しに參與するところの、この會議に對する國際的關心を強めること、著しきものがある。われらは、四ヶ年計畫に制約された、われらの世界經濟政策を、外國に、公明正大に闡明するのに、少しも盡力しなかつたとは云へ、ドイツの經濟的態度は、世界經濟の側から——たとへ、數ヶ月前の如く烈しくはないにしても——どうしても、正當だとは認め得ないやうな批判の眼を向けられてゐるのである。國民的並びに國際的に重大なる經濟組織の問題の論議、國際生産問題並びに國際通商問題の處理は、歓迎された賓客として、わが國に滞在してゐる外國の紳顯たちに對し

て、ドイツの經濟政策の内容を指示することであらう。労働時間の真相は、國際的制約に基くわれらの經濟政策の、不明瞭性と不確實性を取り除くのを助け、それと同時にまた、國際共同労働に關しても、一段とよき、強力なる基礎を作るであらう。しかし、就中、余は次のことを希望する。即ち、ドイツの行政、ドイツの經濟にたづさはる人々に對して、彼等が、個人的な討論を行つて、外國の指導的經濟人や經濟専門家と一層親近となり、その際に、なほ一層緊密なる國際共同労働實現の思想に、盡力する機會の與へられることを。

この雜誌の外國の協力者たちが、彼等に特別に押し迫つて來る問題を、いつも、更に一層立派な國際共同労働の思想よりも、あと廻しにして論じてゐるやうに、余もまた、國際商業會議所のこの會議に對して、その會合と、その準備が、この側面から充實されてゐることを熱望する。國際經濟關係の新形成を顧慮しての積極的な結果は、われらを凡ゆる側から熱望されてゐる成果に接近せしめるであらう、といふことを余は確信してゐる。

われらは、ドイツの労働する人々に對して、生活必需品は言ふに及ばず、失はれてゐた精神的満足までも與へようと欲するが故に、われら國民社會主義者にとつては、社會問題といふのは、單に「胃袋の問題」だけではない。これと同様に、われらドイツ人は、世界經濟の問題を

も 單に個人經濟的な利益からばかりでなく、就中國民政策的見地から見るのである。われらの世界經濟に對する努力は、ドイツの製作にかかる生産品を輸出することによつて、自然が、ドイツや、その生れた土地に生活するドイツの人々に與へてくれなかつた天然の資源を、輸入し得るといふ、一層深い意義を持つものである。さて余は問うてみる。では他の國民にあつては、これとは別な立場を採り得るであらうか。あらゆる自然の恩恵が、平均して、充分與へられてゐる土地があるであらうか。答は明白である。故に余は次の如き意見を持つものである。即ち、いづれの土地にしる、國際的物産交易に關與することを斷念し得る所はあり得ない。もしもその國の住民に、全人類に行き亘つてゐる資源の所有と享受を、斷念せしめることが出来ない限りは。かくして、夫々の國に於ける國民經濟は、どうしても、世界經濟的聯關を放棄し得なくなる。この結合から必然的に生れた共同労働は、夫々の國家經濟が、經濟的にしつかりして來れば來るほど、益々堅實圓滑なものとなる。個々の健全なる國民經濟と、あらゆる側面から均等に活氣づいてゐる諸民族間に於ける共同労働に對する意志とは、世界經濟隆盛の前提である。微弱なる、不自由なる、非獨立の國民經濟は、未だ嘗て、規則的な世界貿易を促進せしめたことはなかつた。

ドイツ國內經濟の再建を確固ならしめ、同時にドイツ國民の生活確保を保證すべきドイツの四ヶ年計畫は、それ故、新しき世界經濟建設のための妨害となるものではない。むしろドイツは、確固たる鐵の如き經濟體制を以つて、世界經濟に最も價值ある積極性を齎すものである。なぜならば、工業國の研究室や建設事務室に於ける發見や技術的改良、そしてまた、そこから新しく發展された産業や工業は、單に自國のための國家經濟的であるのみでなく、同時にまた、國際的にも貴重なる意義を持つからである。この産業から生じた新生産品は、國家經濟の強化と同時に、世界經濟の豊富化に役立つものである。そして、ドイツが先づ眞先に着手した如く、諸他の國々も、今日では、その自己の經濟力の最後の源泉に思ひ至つてゐる。かくして平和なる共同労働を行ひつゝ自由なる、獨立的經濟國家として、絶えず、世界貿易を不安なもの、不確實なものたらしめてゐた脆弱なる契約者たちよりも、一層安全に、好都合に、世界經濟の問題を解決して行く同權の仲間が作られて行く。

世界經濟を、有益なる、一大全體にまで綜合形成する方法に關しては、種々意見の相違が起つてくるであらう。しかし、この目的設定のために根本原理を樹てることは、目下起つてゐる困難が、自由に、公明に論議されるならば、さして困難なことではないであらう。余は個人的

に、輸出を喜ぶ國、輸出の能力のある國も、同時に輸入を喜ぶ國であるべきだ、といふ意見を
持つてゐる。しかしそれと同時にまた余は、自己の國家的課題を意識した經濟は、輸出もしく
は輸入すべきものを、外國から命令され得るものではない、といふ信念も持つてゐる。如何
なる犠牲を拂つても輸入するか、或ひは更に國家的に忍び得べからざる政治的束縛によつてま
でも輸出可能性を作るか、といふやうなことは、ドイツにとつては、問題とはならない。四ヶ
年計畫は、かかる逼迫状態から、われらを超越させてゐる。かくして、この計畫は、われらに
自由なる貿易を保證する安全係數と見られる。われらは、將來われらの輸入を、われら自身
考へて爲すであらう。そして、われらが正當なりと認めたもの、われらの要求に適應するもの
だけを購入するであらう。そして同様にして、われらは何らの無理をするところなく、われ
ら自身が不足を感じてゐるやうなものを、輸出することはせずして、外國が要求してゐるや
うなものを輸出するであらう。何はさて置いて、これこそ、われらの品物融通主義工業の
實質的な最高性能であり、われらの確固たる進歩的、化學的、技術的研究結果の産物であ
る。

この原理は、たとへ國家經濟的と云はれ得るものでも、絶対に、妥協は許さない。貿易は買

易である。且つ、世界貿易を條件づける無数の成員と同様に、自國民族の生活標準は決して忘
れられてはならない。そしてまた世界市場の状態に應じて、自國の生産を調整するといふ、時
時の必然性も起つてくるであらう。しかし世界經濟のもとに各々の國が、原則的に、先づ第一
に、その國の眞に要求してゐるものを輸入し、その自然の資源とか、その勞働力からは生産し
得ないものを輸入し、そしてその國に獨特な、自然的精神的實行能力からして、産出し得るも
のを輸出し、かくして世界經濟を豊富ならしめる、といふことが理解されるならば、國家的な
生活確保、即ち、遺憾ながら、非常に屢々誤解されてゐる「自給自足の努力」は、新しき健
全なる世界經濟建設のための、必要缺くべからざる前提より以外の、何物でもないことにな
る。

それ故に、目下行はれんとする國際商業會議所の會議の如き國際的會合にあつても、世界經
濟とは、國民經濟と同様に、決して、人々が終始一貫して誘導したり支配したりし得るも
のではなく、また人々が、絶対に正しい方向や更には法則を與へ得るやうな、具體的、具象的
なものではない、といふ一事は看過されるべきではないであらう。世界經濟は、自らを指揮
するものではない。それは貨幣本位、貿易本位政策の學說によつて、生命を保つてゐるので

はない。それはむしろ個々の國民が、その中で相互に存続して行く現實の經濟的文化的關聯への政治家たちの正しい洞察によつて、生命を保つのである。世界經濟は、それぞれの、國の限界を超越して、相互の需要供給を行ふべき諸民族の生活力と共に、成立し、消滅するものである。「世界經濟」は、個々の國民經濟の間の豊富なる、經濟的相互關係の總體以外の何物でもない。

今日では、もはや何處の國も、この世界經濟を忌避することは出来ない。何處の國も、今日ではもはや、次のやうなことを言ふことは出来ない。即ち、われらは、世界經濟を否定する、そして、われらだけで、生活し、經濟を營んで行きたいと言ふことは出来ないのだ。世界貿易に及ぼした、それぞれの國民經濟の損失の結果は、充分に知られてゐる。ヨーロッパばかりでなく、全世界は、もしも、これから絶えず悪意と無理解が、破壊の猛威を逞しくするならば、如何にして、最後の破局を喰ひ止めることが出来るのであらう。それ故、今や人々は、國際的な經濟の會合に於て、世界經濟の新秩序に盡力すべき時なのである。

ドイツは常に——現在のベルリンも同様であるが——かかる説に關與する準備が出来てゐる。ドイツは、この方法で、必然的に起らねばならぬことへの洞察を深め、それと同時に、實

際的再建のための第一前提が作られるといふことを望んでゐる。この目的は相互の信頼によつて到達せられ、かくして新しく秩序づけられた全世界の政治的社會的平和の世界經濟の地盤の上に、確保され得る、といふことを、ドイツは確信してゐる。

もしも、國際商業會議所の第九回會議の仕事が、積極的な共同事業、建設事業たるこの精神によつて行はれるならば、その會議には、余の心から希望してゐる結果が期待出来るであらう。しかもそれはまた、新しき世界經濟建設への道の第一歩にしか過ぎないであらう。

活體解剖に對する鬭争

余が活體解剖の動物虐待に對する訓令を發した日以来、余は潮の如く電報や手紙を受取つた。これらは、動物虐待の格闘に對して遂に嚴格な處置に及んだことが、最も當を得たものであると云つて非常な賛意を示し、祝福を表はしたものであつた。余の訓令がかくも突如として、宛も閃光の如く青空からひらめいて來たといふことが、驚きを以つて迎へられたのであらう。數年來、活體解剖に對する鬭争が行はれてゐる。多くのものがこれについて演説し、科學的或ひは非科學的な形式に於て論争されたが、しかしどうにも仕様がなかつたのである。國民社會主義の政府は、その最初の日から言明したのであるが、有力な手段を以つてこれを禁止せねばならぬと思つた。しかし數ヶ月を經過してしまつた。そして遂にかかる法律が周到なる準備をしたのちに發布されることになつたのである。かかる準備時期の間、動物虐待が尙一層擴大されることを防止するために、余は今やこの訓令を發するのであり、動物を無生物として取扱ふことが出來るといふ風に考へる者に對しては、中央警察から處罰するといふことになつた

のである。

ドイツ國民は、常に特別な愛情を以つて動物に對し、動物保護の問題に對して來たのである。數千年以來、動物は家族の者として特別な待遇を受けて來たものであり、否、動物は多くの觀點から見ても、家族共働者であつた。そして——馬についてだけはさう考へてゐるのであるが——共に戰つたものであり、神の創造物と見てゐたのである。ドイツ人にとつて、動物は單に有機的な意味に於ける生物であるのみならず、自己の感情生活を行ひ、苦痛を感じ、歡喜、忠誠、従順を表はすところの創造物である。動物を生命のない、死せる、無感覺の事物と同一視することは、民族感情に相反するものである。動物をただ感覺も精神もない酷使の對象と考へたり、勞働の補助手段と考へ、利用といふ根據から使役し、同様の利用根據から苦しめたり、殺したりすることは、民族感情に相反することである。アールリア民族の童話や傳説、特にドイツ民族のそれは、いかにアールリア人種が動物に對したものであるかをよく示し、その密接なる關係を示してゐる。

從來の法律が、他の種々の領域に於けると同様の點で、民族感情に一致してゐなかつたことは、益々理解しにくいことである。他國の法見解、他國の法概念の影響を受け、法律の指導が

他民族の手によつてなされた不幸なる事實の影響のもとに、動物を死せる事物と同一視するやうな法律が今日まで行はれ、動物を所有してゐる者は、彼の所有にかかる凡ゆるその他の死物に對するやうに、全權が與へられてゐたのである。これはドイツ的感情に反するものであり、動物を無生物と同一視し、その所有者に絶對の處分權が附與されたといふことは、ドイツ人の精神的態度としての國民社會主義的見解には殊のほか、相反するものである。所有者が凡ゆる死物のやうにそれを取扱ひ、それに對して何らの處罰もなされず、價値の低いものであるといふ理由で苦しめられても構はぬといふやうなことを、われらは理解することが出来なかつたのである。

國民社會主義が起るまでは、法律は次のやうなことに限られてゐた。即ちそれが若しも一般の憤怒を惹き起すほどの野蠻な酷使の場合だけ罰せられるといふ風であつた。したがつてその場合には、その動物虐待を見てゐた他の證人が居らねばならなかつた。そこで初めて一般に處罰の可能性が與へられたのである。一九二七年の法律はこの見解を破らうとした。そして動物虐待をそれだけで以つて罰しようとした。しかしながら動物殺害も、もしそれが全く宗教的な或ひは科學的な見地からなされた場合には、例外であるといふ解釋が許された。それはしかし

不十分な解釋であり、それを以つてしては、動物を虐待することから根本的に保護する必然性が正當に主張されないし、またいかなる程度まで科學的目的のために動物を取り扱つたものであるか、それに對する明瞭なる支持點がないわけである。

動物を科學上の目的に用ひることも、實驗に携はる各人が愛情を持つてゐれば出来ないことである。人間の病氣を確めるために、藥劑を得るために、研究の目的に動物を殺すことでも、法律的な統制のもとに、國家の監督の必要がある。なんとすれば、遺憾なことには、それを物質的に、無機化學的に、物理學的に考へ、法律的なことがなかつたため、動物實驗の範圍をドイツ人には堪へられぬほどのところまで擴大してしまつたことは、大戰前の二十年前この方、大戰後までの科學の特徴であつたからである。惡評のあるクロード・フェルナールの如きフランスの實驗學者のみならず、ドイツの、大部分は民族に關係を持たぬ實驗學者は、必要な利用以上に慘酷に動物を虐待してゐたのである。ひどく専門化された、更に多くは民族といふことに關係のない科學者が、動物に對する感情も鈍り、一般にそんなものが全然なくなつたといふことは、過去の科學的文獻からの例が澤山これを示してゐる。その人には人間的な同情心が少しもなく、麻酔もかけずに手術をしたり、火傷をさせたり、凍死させたり、飢餓の状態に置い

ナリしてゐることが記述されてゐるのである。

生きたままの、麻酔もかけない動物の活體解剖や切斷がなされたのである。鼠や海豚や家兎などの實驗に用ひる動物、或ひは國民感情にはどうしても反するやうなもの、人間の寵愛物たる犬までも、その體がひき裂かれ、心臓がとり出され、頭蓋が鑿でほられ、四肢がばらばらにされ、いかにして器管が働いてゐるか、除去されたのちに、いかなる結果が起るかを観察するために用ひられるのである。かうしたことは國民社會主義の感情には理解し得ないことであるが、しかし残念なことに事實は、手術をする前に動物を出来る限り麻酔さすこともせず、動物を處理するに必要な配慮は少しもなされてゐないのである。

かかる活體解剖が過去數十年に於て、人間の身體の構造や生命の認識にとつて、如何に必要であつたか、そして如何に有用であつたは問題外に置かれたやうである。今日はともかく科學は、活體解剖による動物の苛酷なる殺害の必要が餘りなくなつた、といふ見地に立つてゐるのである。したがつてかかる實驗は益々減少を示して來た状態である。活體解剖の根本的に斷乎たる禁止は、ただ單に動物愛や動物の苦痛を思ひやるといふことだけではなく、一般に人間性の問題でもある。動物を保護するためにだけ動物愛護が必要なのではなく、同時にわれらは、

動物やその苦痛に對する思慮なき無頓着や、人間の野蠻や慘忍に對しても戰ふべきである。

余はそれ故にプロシアに對しては、凡ゆる活體解剖の禁止令を直ちに發布したのであり、この法律が嚴格な處罰を意味することが出来るまでは、中央警察に連れて行かれるといふ罰を受けるやうにしたのである。余はプロシアの大臣に提議して、出来るだけ速く、これに關する法律が作られることを願つたのであり、余が今日すでに告知し得ることは、これに關係ある内務大臣は、この法律を來週のうちに、既に實施し得るやうにする、といふことである。

活體解剖とは、しかしながら、不必要な動物虐待の凡てを含むものである。科學的な實驗ばかりでなく、日常生活で行はれる動物虐待は全部、法律的な新しい取締りを受けるべきである。そして遂には動物愛護法の全問題が統一的に範例を以つて示されるといふことは、余の訓令によつて刺激された専門家による、動物愛護問題の改變の結果であるであらう。

人間の病氣を研究するため、藥劑を作るため、かくて一般に進歩を促すために、動物を殺すことが必要である限りに於て、今や一つひとつの場合に規定を確立することが、専門家のなすべき問題である。この場合余は、人間と動物とを同様に脅す傳染病などを研究する方法のことを考へてゐるのである。かかる病氣の原因を顯微鏡的な研究によつて確立する見込みのない場

合とか、動物實驗でなければ出来ないときには、麻酔と愛護のもとにこれを用ひてもよいであらう。血液から注射用血清を得るために、動物の血液をとることは、人間の病氣が直接危険に瀕してゐる場合だけ用ひられてよい。しかも小さい、これに對して必要なことは、別に動物虐待とか活體解剖とかいふことは出来ない。そのわけは、それは先づ以つて大部分、困難な傳染病を除去することに貢献するからである。例へば血清が負傷による硬直痙攣やガスの火傷に對抗するために、いかに驚くべき助けをなしたかといふことは、大戦の經驗を想ひ起せば明かである。もしも血液をとる場合でも、慎重な配慮のもとに行へば、動物に殆ど障害を與へずにすむのである。特に大きな危険に際會したときには、同胞を助けるために、凡ての人間は彼の血の一部を與へる氣持でなければならぬ。

豚を使ふ動物實驗から、睡眠病に對する効果ある藥劑として世界的なものが發見されたとするならば、この藥が更に他の動物にも適用される。しかし、この場合でも、必ず愛護の氣持で以つて必要な麻酔を施して實驗さるべきであらう。

動物の器官からとれる藥劑は、例へばインスリン劑の如く、糖尿病を根治するのに効目あるものであるが、この製造には今では文明國の工場が競争してゐるのである。しかしそれも無機

化學的には實驗されないものであるから、その作用を動物について見るほかに道はないのである。

また壞血病の如き營養不良の病氣も、ただ動物實驗によつて分ることが出来たのである。かかる營養實驗はわれらの營養問題を新しく考へるために重要な領域であるから、更に一層要求さるべきことである。

余はかかる例を一々澤山擧げて見ることをしたくない。これらは、われらの科學の成果ある仕事の證明である。しかしながら、それがいかに必要缺くべからざるものであらうとも、それに必要な動物殺傷は除去されなければならない。そして凡ゆる規準は出来るだけの愛護心を以つて實行されなければならないのである。

全身麻酔とか局部麻酔は人間の手術の際ばかりではなく、もし科學に、したがつて人間に貢獻するのであるならば、人間と同様の程度に、同じやうな配慮を以つて動物にも適用されなければならない。われらと特別な關係のある動物、即ち犬や猫は凡ゆる實驗から除かれ、それは他の、もつと下等な動物で施行されねばならない。鼠のやうなものは、たしかに感覺が鈍いものであるから、家畜よりもわれらの同情を惹くものではない。しかしそれでも矢張り、實驗に

際しては、同様の配慮がなされるべきであり、人間のために何としても必要な場合に限つてなされるべきである。

かかる實驗に従事する人間は、眞面目な科學者にのみ限られねばならぬ。かくの如き人々により、かくて實驗された研究室からは、病人を治すための利用が約束されてよいであらう。しかしながら、それでもなほ、國家は監督を怠つてはならず、もしも誤用が起つた場合には、國家はこれに干渉しなければならぬ。これに反して、教授の目的のためには、動物實驗の代りに、出来るだけ繪や映畫によつてこれを補ふべきである。

かくの如き凡ゆる個々の問題に關しては、余によつて現在招集されたる科學及び動物愛護の専門家たちの會議が、これを明かにし、彼等の提案を余に交附するであらう。余はわざと先づ以、てすでに、永年動物愛護に關係し、永年活體解剖の無慘なる虐待に對して戰つて來たとこの専門家を招集したのであるが、それに將來の法律に對する明確な見解を用意するための可能性を彼等に與へんがためであつた。數十年來、動物愛護の必要をすでに認めてゐた人々と、何らの顧慮もなく動物を人間のためにのみ使はうとする人々との間に、鬭争が展開されてゐたのである。醫學を學ぶ人間は、彼が先づ一度は、いかなる動物についても多少うまい實驗をな

し得るものだと考へるのだが、それは宜しくないことである。

余によつて提案された法的な新統制を通して、われらは遂に、この焦眉の問題を解決することになるであらう。かくしてわれらは再び、わがドイツの文化生活の一分野に、内面的平和の建設をもたらすであらう。必要なことはそのままに留り、慘酷なる活體解剖や動物虐待の如き不必要なことは、無くなるであらうし、また無くならねばならない。かくてわれらの内外の政治的生活の發展にとつて必然的な和協が、ここにも達せられるであらう。

藝術意志と民族感情

ドイツは、新しい問題と仕事をひつ提げて、所定の目的に向つて前進する。年を送るに當つて、これまでの成果を回顧するのは誠に當然のことである。國民生活のための諸種の物質的必需品が完全に得られたか、或ひは完全にではなくとも、望み通りに得られたかどうか、といふ問題は兎も角として、われらドイツ人は、より高い幸福への希望を以て、次の一つのことを確認するのである。即ち國民社會主義革命の第二年目は、ドイツ國民の久しく缺如し、熱望してゐたところの統一を實現したのである。もはや利益團體といふものは存在しないのである。黨派は掃蕩され、ドイツ人同志の仲間喧嘩は、ドイツ國民協同體として生れ變つた。無数のエネルギーはわれらの指導者として、且つ國家の首相として、國民の運命を決定し指導するところの、一人の男の手に一括して握られて居るのである。

第二に、亡命者の如き周知の新ドイツの憎悪者やその同情者仲間を除けば、外國も亦アドルフ・ヒトラーとその新國家に對して、漸次理解を持つことを確言することが出来るのは、われ

らの誠に歡喜に堪へないところである。なほ暫くは、世界は、この國民社會主義革命がドイツにとつて如何なる意味を持つものであるか、また將來の世界的事件に對して如何なる意味を内包するものであるか、理解しさうにもない。國民社會主義を誹謗する者は、故意に平和を攪亂しようとする者である。この運命的な一年を送るに際し、ヨーロッパの民族の間に、或ひは世界の間に、暴力的な論戦が開始されるであらうといふ、輕率で暗澹たる豫言が適中しなかつたことを、世界の眞の満足の喜びを以つて確認することは、余の特に欣快とするところである。半年前にも言つたことであるが、余は更に、世界の平和を確保するといふ凡ての政治家の共通の仕事が成功するだらうことを、今後もなほ確信するものである。打開された認識と、平和意志の勝利が最も明瞭に現れるのは、前大戰の勇士の心をつなぐ共鳴であつて、現につい最近もそれは、和解と相互の理解のために貢献するところ大なるものがあつたのである。

そして、最近クリスマス鐘が萬人の心に偉大なる平和の使命を新たに喚び醒ましたのであるが、われらとて、そのよき意志を證明し、國民に太陽の輝きをもう一度與へようといふ、偉大なる平和事業に、實際に協力しなければならぬ義務を各自持つものであることを、決して忘れようとするものではない。

ドイツ國民は、運命が課した使命を遂行するために、全力を平和の運動に集中する決意であることを、新たに表明した。ドイツ國民を結びつける鋼鐵の紐帯として、アドルフ・ヒトラーが鍛へ上げた政治意志の統一的共鳴の結果は、その行政第二年目の終りに當つて、既に喜ばしき最初の成果を凡ゆる領域に亘つて示してゐる。ドイツは、經濟的困窮とも戦はなければならぬのであるが、それにも拘はらず、否、正にそのためにこそ、ドイツ國民は、類例のない不可分の協同體の感情に充ち満ちてゐるのである。全ドイツ國民は、手と手を握り合つて、一人の人間の如く一體となり、經濟情勢の改善のために戦つてゐるのである。國民社會主義運動は、内部的對立を克服し、ドイツ人であることを新たに目覺ましめた。六千五百萬の國民ががちり一體となつて、頑丈な岩石の上に新しく自分の家を建てるのである。それは、あらゆる階層の人間を收容し、一人びとりの國民にわが家を提供し、そこでは誰でもが勞働の権利があり、その仕事に應じた勞銀を與へられる。國民的聯帶性といふことは、われらの合言葉ではない。それは全體性に對する個々人の責任意志なのである。隣人のために喜んで與へるといふ、凡ゆる職業層のこのやうな競争心といふものは、世界中何處にもなかつたのであるし、未だ嘗つて、これ以上有力な協同體思想の證明はなかつたのである。屢々忘れ勝ちのことであるが、

われらは、單に國民社會主義者であるばかりではなく、最もよい意味での勞働黨であるのである。したがつて又、自らの新ドイツを建設する者は、無名の勞働者なのである。

世界の他の國々と同じやうに、ドイツも亦經濟的領域に於て異常な努力を拂ひ、大きな困難を克服して行かなければならぬであらうが、しかしわれらは、一瞬と雖も、ドイツ人の偉大なる精神的民族財といふものを等閑に附したことはない。國民社會主義運動の見解によれば、社會的、經濟的契機といふものだけが、一つの民族を團結させ、健康を回復するための規準では決してないのである。それよりもつと力強くわれらを動かすものは、精神的、内面的財のための配慮であつて、そのためにこそ、民族の一人びとりが、最後の勝利のために全身を捧げようといふ力が沸いて來るのである。更に、「肉體の健康を維持するものは、常に精神」であつたのである。

國民社會主義運動は、國民の全生命の中に、アドルフ・ヒトラーの教義を浸透せしめるといふことを以つて、自己の使命として來た。それは勿論、今日から明日へといふ風に行くものではない。國民社會主義の原理が組織的に實現されて行く進展の仕方は、自然にして撓みなき建設である。われらは、不自然な力を用ふることなくして、日日、この目的に近づきつゝある

のである。なぜなら、國民社會主義的世界觀は、ドイツ民族性の何百年來の宿願を實現するものであり、ドイツの民族的、種族的特性と合致するものであり、且つドイツ民族性は、この國民社會主義のうちに於て、自己を發見し、又そこに自己の最高の完成を見出したのである。なるほど一寸の間は、一つの民族といふものより、珍しい世界觀に興味を持つといふやうなこともあり得るのではあるが、永い間には、民族の心にはただ、人間の魂を完全に捉へ、その深い神聖なる憧憬の念を滿たす信仰のみが、根を下すであらう。

かくて、新ドイツに於ける凡ゆる精神的、藝術的創造、並びに、一般に凡ゆる生命の表現といふものは、實際的領域であると、政治經濟的領域であると、或ひは學藝的領域であるとを問はず、ただ、國民社會主義的世界觀の體驗からのみ生れ得るものであることは、言ふまでもないことである。藝術家や學者は勿論、その勞作を以つて民族の心に反響を呼び起さなければならぬ。しかも彼等が、その民族の思想感情と完全なる一體となつてゐるといふことが、彼等の活動の第一の前提である。藝術や學者の仕事は、もしそれが個々人の恣意的な私的作品に止まるならば、たとひ彼等が偉大なる天才であるとしても、真空の中を根無し草のやうに漂ふであらう。精神的創造の自由は、言ふまでもなく拘束されるべきではない。しかしその原理は、

必ず、國民社會主義的世界觀によつて規定されるのである。

余が個人的に、われらの民族の藝術財の維持と表現に、かくも力を入れ、肩を入れるのは、それは余が藝術を愛好するからといふだけの理由ではなく、もつと深い根據からなのである。國民社會主義國家の全體的要求は、もしそれが、全藝術的生命を把握するならば、技術的には解決し得ない、寧ろ、民族の一人びとり並びに協同體に對する深い責任を内包するところの義務を藏してゐるのである。故に、われらは、内面的にドイツ民族性と無縁な、誤解された感傷的な考へ方に影響されるやうなことはないものであり、また影響されてはならないのである。個人の全體性に對する意義は、如何なる公的生活の領域に於けるよりも、藝術に於て最も強調されるのである。

國民社會主義が、藝術家に正しい發展の可能性を賦與したのは、藝術家が、新國家の原理、即ち、國民社會主義的民族の原理に完全に到達することを要求するからである。國民社會主義的世界觀との、このやうな内面的な結びつきがなければ、藝術家は、ドイツ民族から決して理解せられないであらう。なぜならば、民族は、抽象的で、民族と無縁な藝術的理念といふやうなものは、理解することが出来ないからである。如何なる場合でもさうであるやうに、藝術

の場合も、その發展は、個々人にとつては往々困難であつたり、特に、理解し難く見えるかも知れないのであるが、しかし、大なる目的のためには、それは斷じてなされなければならないものである。

藝術は、民族的原理と不可分的に結合されてゐるものであると、余は考へてゐる。中世の偉大なる藝術が種族と結びついてゐることは、誰でも當然のことと考へてゐる。世界の人は、この時代のドイツの巨匠たちの偉大なる作品に驚歎してゐる。その際彼等は、これらの作品がわれらの心を掴むのは、それが一重に民族的性格に根ざしてゐるからであるといふことを忘れてゐるだけなのである。國民社會主義は、ドイツの藝術をこの根本的な認識に導くのである。それ故に、民族の自然感、藝術家が、その創造の原理と目的を、國民の全體性の立場から樹立することを要求するのである。

(一九三四、一二月、ヘアルスト紙所載)

第三國家の建築物

今、ここに參集せられた諸君は皆、ただに國都にとつてだけでなく、更に廣く、全ドイツ國家にとつても、比類なき一大事件に關與して居るのだ、といふことを知つてゐるであらう。なぜなれば、大なる國家の建物の上棟式が、アドルフ・ヒトラーの名と、國民社會主義の精神に於て舉行せられるといふことは、これを以つて最初とするからである。實にそれは、如何なる精神から生れ創造されたものであるかを、海外に向つて表示するところの唯一の建物であつて、それは、新國家の力を象徴するものであり、更に、以前は諸黨派の費用削減の要求によつて、今度の二倍の時日を要したのを、僅々數ヶ月で以つて一つの建物を完成したといふ、旺盛なる創造の喜びと創造の力を示すものである。更にそれは、重要なことは働くことであつて、しゃべることではない、といふことを證明するものである。強力なる指導のもとに、情熱的な意志と不屈の活動によつて、第三國家の最初の石の作品が出現したのであるが、これはまた諸君の絶大なる支持の賜である。

われらの總統は、屋外ナチス黨會議に於て、ドイツの文化、ドイツの建築、ドイツの將來の創造に就て、驚歎すべき言葉を以つて語つたのであるが、諸君は皆、總統の言葉を、總統の意志を、總統の心を以つて理解して居られる筈である。彼はわれらの言葉を以つて語つてゐる。それ故に、彼が、困難のどん底から、再び幸福と自由の世界を築き上げた、かの比類なき國民の意志を、後世何千年にまで傳へるために、偉大なるものを創造し、豪壯なる建築物を建設するやうに要求したとき、われらは彼の眞意を理解したのである。總統は次のやうに言つた。物質的困難が人間を壓迫することが大きければ大きいほど、自主的な生活が困難であればあるほど——凡ての人間が一人残らず、その憧憬と希望を満足させることは出来ないものであるから——、凡ての者がその勇敢なる精神を蔓のやうに捲きつけることが出来、また自分自身のもので感ずるやうな、凡ての人に共通な何かが発生することが、いよいよ以つて必然的になる。かくて、民族協同體の建設を使命とし、人間を鍛へて民族協同體のうちに融合せしめようとする國家にとつては、それは益々必然的なことである。即ち、かゝる國家はまた、國民に魂を吹き込む、彼の偉大なる意志の實證を示さなければならぬ。

實際、石以上に雄辯に物語る何があるであらうか。時は流れ、民族は死滅し、種族は灰色の

前時代の中に姿を消したけれども、偉大なる建築物はその偉大なる時代を越えて聳え立ち、そして、嘗つて、不羈の力と天馬の誇りに充ち満ちた種族が生存したこと、その彼等は何千年の後までも、かくの如き證據を傳へることが出来たのであることを、われらに物語るのである。

もし、われらが今日、われらを心から揺り動かし、過去の偉大なるものを想ひ起さすところの、かくの如き比類なく偉大なる建物の前に立つたとするならば、余がこの建物を眺め、そして、今日のためでもなく、明日のためでもなく、遠い未來のための報告者として、われらも亦石によつて明らかに話したのであることを、本日ここに確認出来ることが、如何に余の感激に堪へないところであるかを、諸君は諒解するであらう。しかして、このドイツの力とドイツの美意識の證明のために、必要以上の裝飾を省いて、今日われら凡てを支配するところの、かの峻嚴なる精神の表現としての、峻嚴なる線條を表はしてゐる建物のために、諸君が協力し、助力したことを諸君は誇りとし、喜びとしなければならぬ。

民族の協同體の原理は、この建物の建築原理のうちに表現されてゐる。この建物は、諸君がその如何なる部分に協力したかに論なく、諸君自身の意志と能力とを物語つてゐる。如何なるものも、緊密に組合つて努力するのでなければ、出来るものではない。如何なるものと雖も、

石をしつかりと組み合はし、セメントを以つて固めなければ、永持ちすることは出来ない。嫌らしく正面を飾り立て、異國精神を一杯盛り込んだ、今日の宮殿や百貨店は、僅々數十年を目當ての建物であつて、既に割れ目や龜裂を見せてゐるのに反し、ここに出来上つた、奔放にして粗朴な建物は、堅牢確實であるのであつて、それといふのも、民族協同體がまた堅實緊密に組織されてゐるがためである。如何に風雨や嵐が荒れ狂ふとも、この堅牢なる民族協同體のうちには於て、われらはこれに堪へて行くであらう。恰もこの建物が、諸君の熱誠と細心の注意によつて、自然の暴力によつて龜裂を生じないやうに。かくてドイツ民族も亦、不信や猜疑、墮落が巢喰ひ、そこから、現在徐々に成長しつつある事業に龜裂を生ぜしめ、破壊せしめるが如き割れ目一つでも作つてはならないのである。

この仕事に携はつた諸君は皆、民族協同體を象徴するものは、一つの建物以上のものではないといふことを感ずることであらう。この建物を建設するといふことは、一つの文化活動であつたのである。余の住居は、この建物と目と鼻の所にある。余は、そこから、この工事を監視して來たのであるが、夜眠れないやうなとき、ハンマーの響きに耳を傾けたり、投光機の光が、窓から流れ出てゐるのを眺めるのは、誠に楽しいことであつた。それは、新國家の音楽であり、

ドイツの仕事の永遠に平等な、輝かしい交響曲であつた。われらの民族がすっかり忘れてしまつてゐるところの、この驚くべき音楽を、再び盗み聴くことが出来るのであれば、誰でも睡眠の時間を喜んでそのために捧げるであらう。

數年前には、さういふことは未だなかつたのである。何百萬人の飢ゑたる國民が、職もなく街頭を彷徨してゐたのである。彼等が働き口もなく、食べる物もないとき、彼等の飢渴せる心と頭腦に浮ぶものは、彼等を毒殺する腐敗物しかないのであつた。さういふ時代は何處へ行つたのだらう。そして今日はどうかだらう。今は、あらゆるものが再び活動を始め、經濟の車輪は到る所で唸り聲を擧げ、凡ての場所で國民の價値が認められてゐる。八ヶ月で一つの建物が建設される、といふ時代に生きるといふことは、誠に比類なく美はしいことである。しかし、われらは、それが出来たのは、總統の意志が仕事に従事する最後の労働者に至るまで浸透するといふ、かの比類なき組織に由来するものであることを忘れてはならない。一つの意志、一つの精神が、彼等を支配し、前へ前へといふ衝動が彼等の心に充ち満ちてゐる。諸君は言語に絶する犠牲に堪へて來たのである。それは、今日ここに参集した諸君だけでなく、既に、また他の場所働いてゐる諸君の仲間もさうであつて、彼等に對しても亦、余は感謝の意を表するもの

である。諸君は諸君の全力を集中して、晝となく夜となく活動を續けて來た。日曜日も仕事は休むことなく、同じ速さで行はれた。死語にのみ拘泥し、死語の下僕であるところの者は、或ひは日曜日の安息を破ることに就て論をなすかも知れない。しかし諸君、かくの如き建物を建設するといふことは、神の心に適つたことなのである。神はわれらの、この建物に祝福を垂れ給うたのである。でなかつたら、どうしてこの建物が出來上つたであらうか。しかして、もしわれらが十度び、祝祭日に労働をしたとしても、それは、それと同様に重要な祝祭日の仕事をしたことになるのである。なぜならば、この建物は、國家の外面的表現としてのみでなく、ドイツ航空事業のための内面的必然性としても亦、出現しなければならなかつたからである。

かくて、この建物は、また誠に、われらの航空機の新しき生誕の象徴であり、突進する精神の象徴であり、嘗つてはわれらを打ち倒した、かの兵器に對するわれらの勇氣を鼓舞する情熱的な精力の象徴である。その兵器は、それに對して、われらが如何なる精神を盛り込むかといふことが周知のことであつたので、われらの手へは斷じて手渡されなかつたのであるが、われらは今日國家を防衛するために、再びわれらの手に取り戻したのである。この航空機はし、かし又、一つの建物を、一つの中心を、最後の部隊、最後の中隊にまで流れ込む、力の流れの源

泉としての精神的中心點を必要とする。この建物は、總統の召しを受け、祖國と總統のために空の護りにつく、光榮を持つ凡ての人々のための力の源泉であり、且つ源泉でなければならぬ。それは、強烈な精神的波濤と流れの源泉であり、何ものを以つてしても打ち破ることの出來ない團結であり、何ものを以つてしても阻止し得ない勇氣であり、何ものを以つてしても妨碍し得ざる實行力であり、祖國と總統と民族に捧げる情熱的な意志である。

かくて、將來、この建物の中で働く人々は、自分等のために、この美はしき労働の故郷を作つてくれたのは、ドイツの労働者の逞しい拳であつたことを、感謝して記憶しなければならぬ。彼等は、財寶は、善き意志と善き思想のある場合にのみ生れるものであることを、考へて感謝しなければならぬ。彼等は、彼等のためにかかる家を作つたのは、ただ總統によつて創造せられた民族協同體だけであつたことを、感謝して理解しなければならぬ。なぜならば、そこで働かなければならない建物が、猜疑と憎惡のうちに建てられたといふことと、われらの住み、労働する建物が喜びのうちに建てられ、そして、その仕事に對する愛と、その仕事を創造した労働者たちの喜びとによつて作り出されたといふこととは、若干の相違があるからである。かくて、この建物の中に於て又、筋肉労働者と精神労働者との間に、民族協同體性が比類

なく強化され、また、この協同體性が、この建物の中で働く人々に對して垂範たらんことが望まれるのである。

この建物は更に、國民社會主義的精神財の監視所とならなければならない。諸々の場所で勞働し、書き、読み、製圖をかき、研究し、計畫を立て、組織する人たちはさういふことが皆出来るやうになつたのは、國民社會主義が勝利を得たからであり、その結果、われらの總統の驚歎すべき思想財が全民族に分け與へられたからであり、總統からわれらに贈られた世界觀の中から、階級憎惡、身分的高慢、嫉視、猜疑、増長等の分裂的なものを全部追ひ出さなければならなかつたからであり、ただ善きもの、堅實なものだけが、この思想財の中で成長し得るからであることを常に知つてゐて欲しいのである。絶えず感謝の心を忘れず、國民社會主義と、そして、民族を解放し、民族を新たに鼓舞し、民族を再生せしめたかの光輝ある理念、絶望し、失神し、無数の傷口から血を吹き出してゐる民族の手に、光り輝く炬火として、再び返してやるために、總統が天から取つて來た理念の忠實なる下僕たることを、義務と感ずることを望むものである。この中で働く者は、總統は、その運動と理念とを以つて、ドイツの暗夜に忠誠の炬火を、ドイツの將來に對する新しい信仰の炬火をたいたのであることを、またさうすることに

よつて、われらの民族を團結せしめ、そして又、この建物を八ヶ月で建設せしめたのであることを忘れてはならない。正に、國民社會主義の輝かしき實證である。しかし、この思想財を理解しない者、或ひは内心だけでも、われらの理念の純粹性を犯すが如き者は、自ら慚愧して、この建物から出て行つて貰ひたい。さうでない場合、この建物は、凡てのものに翼を與へて、自己の世界を超えて成長する自由を許すであらう。それは、一旦緩急ある場合、國民社會主義的建物としての、この建物の中から流れ出づべき、この理念の力によつて、彼等が自己の能力以上の偉業を遂行するやうな努力を、彼等に與へるであらう。

これは比類なき信條である。ここにわれらの建物が立つてゐる。そして、ここからつい目と鼻の處に又一つの建物がある。——昔の州議事堂が——以前、今と違つた時代に、今と全然別個の目的のために建てられた建物がある。此處では勞働がなされるが、彼處では、冗言と無駄口が行はれた。此處には誠實な意志があるが、彼處には誠意のない意志のやりとりがあり、此處には民族に對する活潑な興味があるが、彼處には個人的問題に關する無數の興味があつた。これはわれらの深く考ふべき對立であつたのである。しかし、彼處の建物を、その本來の目的から救ひ得たこと、かのプロシアの古い國會から、再び目的達成に役立つ建物を建設し得た

こと 彼處の建物に集合してゐた凡ゆる黨派を掃蕩し、彼等がわれらを分離してゐた、かの深淵の中につき墜し得たこと、そして、その深淵は今や口を閉ぢて、黨派や職業や階級を超えた一つの統一的民族と國家が形成されたことは、余の言ひやうのない喜びである。

數ヶ月のうちには、彼處の建物に接して、一つの建物が完成される筈である。その曉は、われらは、われらの意欲と意志とを携行して、そこへ引越す筈である。即ち、かくして、われらは仕事を民族と結びつけるのである。

しかし、われらは又同じく、この新しい建物に接して建つてゐたもので、新しくこの土地に建て替へられる、いま一つの建物を想ひ出す。上述した國會の建物が、無意味なおしやべりに使用されてゐたのに反し、その建物は、靜肅で、熱意と誠實な仕事の場所であつた。今日われらの省の最後の建物が着手され、徐々に高くなつて行つて居る、この場所には、嘗つては、昔のプロシアの陸軍省があつたのであつて、そこには、以前は自由戦争の偉大なる人々や、百戦百勝の軍隊を創設したシャルンホルストやグナイゼナウが坐してゐたのである。その建物では、義務と忠誠と仕事とが支配してゐた。われらは、そこから最もよきプロシア―ドイツの傳統を引繼ぐのである。われらは、その土臺の中から、同様に熱心に、義務に忠實に、且つ恭順に

仕事をする力を汲み取らうと欲するものである。

かくて、嘗つては違つた目的のために建てられた兩翼の二つの建物は一つに結合され、その間にあつて、われらの偉大なる新しい建物はその兩腕を擴げ、彼等を抱き寄せてゐるのである。そして、そこから汲み取つた力と傳統を、われらは新たに他のものに注ぎ込むのであるが、しかし、それも結局は一つの全體的な作品を、即ちドイツ航空の家を、ドイツ飛行界の中心を、ドイツ航空機の最高司令部を建設するためである。諸君のうちに、われらと思想を異にし、これらのことを敢へて理解しようとせず、そして、おい、どうだ、國民社會主義者たちは、贅澤な建物をじやんじやん建ててゐるぢやないか、等と言ふやうな者が、なほ若干居るかも知れないが、考へて見給へ。彼等はその際、この建物が如何に多くの人々に仕事を與へたかといふことは言はないのである。彼等が輕薄にも云ふところは、贅澤なものを建てる必要はない、贅澤なものを作るべきではないといふのである。しかし、國民を飢ゑさすことも亦贅澤ではないか。諸君の中には、僅か數ヶ月、數年前には働きのなかつた者が澤山ある筈であつて、ドイツ人殊にドイツの労働者は施し物で生活したり、物乞ひをすることを潔しとしないものであつて見れば、彼等は結局、もう一度仕事にありつけるといふことで幸福になれたわけである。彼等は

労働を欲して居るのであり、その労働に對する正當な賃銀を要求するのである。アドルフ・ヒトラーが、總統が建築し全國民の生命を覺醒せしめようと決意したからこそ、仕事に與へられたのである。それだからこそ、今日再び、前に増した満足と喜びの顔が見られるのである。凡てのこのあらを探したり、批評を加へたりすることは容易なことである。なんでも、これに何か別の解釋を加へたり、その中にある偉大なものを押し隠したりすることは容易なことである。われらが、ここに設立したものは、決して贅澤な建物ではないのである。寧ろそれは、労働と、確固たる義務遂行のための建物である。この建物は、ドイツ航空を鼓舞する精神の故郷なのである。

本日、われらは、その上棟式をここに舉行し、更に、この建物がその落成に向つて進む日を鶴首して待つものである。そして、本日この上棟式に於ては勿論のこと、將來永遠にわれらは、この中で、働くことが出来ることに對して、滿腔の感謝の念を持つと共に、この建築に協働せられた凡ての諸君に對して、深く心からなる感謝の意を表するものである。

諸君の一人ひとり、この家に自分も關與したのだといふ感じを抱いて居るやうに、余も亦最初から、この光輝ある建物の成立に關與して來ることが出来たことが、心から喜びとし、

誇りと感じてゐるのである。この建物が、大した災害に遭遇することもなく實現することが出来たのは、誠に天佑の然らしむるところである。この作品が強く確固たる地歩を固めるまで、この民族に與へられた仕事に對して、その強く偉大な保護の手が加へられんことを、われらは神に祈るものである。

しかし就中われらの又感謝してやまない者、それは、この建物に對して精神的、民族的基礎を置き、今日のドイツ航空機、及びこの建物の出現の前提を創造し、また、一つの民族が喜びを以つて、またその活動の能力を傾けて共同の目的に向つて協力一致するための豫備條件を創造したところの人である。その總統に對してわれらは心からの感謝の念を捧げるものである。彼の精神を奉戴して、われらはこの家の中でも亦なにびとも苦めようとするものではない。ここに於てわれらは、何事をも畫策しようとは思はないし、外國遠征の軍を考へるものでもないし、かしわれらは、ここでわれらも亦、何者からも苦しめられることのないやうに計畫し、考案しようとするものである。諸君、總統は、ピツケベルグに於てわれら飛行家を激勵する演説を諸君が眞に將來常に負ふべき義務を示した。即ち總統は言つた。「有能にして、労働好きの民族をなし、以つて護るものは、國民の力であり、ドイツ航空機である」と。即ちそれは諸君の

義務である。言ふまでもなくわれらは、總統と民族を上空から守護するであらう。この建物もそのために出來たのである。石たるこの建物が、諸君の熱烈なる意慾によつて、即ち、總統がわれらに名づけた「國民の力、ドイツ民族の守り」たらんとする不屈の精神と意志によつて、赤熱し、満たされることは、われらの義務であり、諸君の義務である。

われらの總統、ドイツ國家の首相萬歳を叫んで、このことをここに誓ふものである。

(一九三五、一〇、一二、航空省上棟式にて)

航空技術と航空の研究

本日はわれらの祝賀すべき新しきドイツ航空の記念日である。本日午前には、戦争の結果破壊されたドイツ軍用機の再建に成功したかの一九三六年三月一日の記念式が舉行せられた。この日は、全ドイツ航空の轉回點をなし、且つまた、われらの民族史上永遠に忘却され得ない日である。この日は、總統が、陸軍及び海軍と共に、われらの神聖なるドイツの祖國の國境を守護すべき獨立のドイツ軍用機建設の命令を發した日である。

われらはこの日を回想して又感謝の念に堪へないのは、航空政策上の全體の情勢が、總統の決意によつて改變され、それが動機となつて、ドイツ航空の凡ての他の分野が、内部的に革新される一つの出發點となつたのがこの日であるといふことである。即ち、航空スポーツ及び航空輸送は、新しい強力な軍用機を自由に發展せしめることが出來たし、また就中、科學上、工業上、航空技術は偉大にして、空前の發達をとげたのである。

われらの内面的、外面的改新に對する感激の聖火を掲げ、總統の命令に従つて、われらは仕

事に着手した。われらは、われらの仕事をわれらの想像力を以つて遂行し、過去の遺産と、發育盛りで、生命を凡ゆる美と多面性とで包擁する青年の創造的形能力とを結合した。かくてわれらは、われらの民族と國家に對する聖なる信仰を抱くことによつて、心の疑念と懦弱とを克服し、且つ、われらの民族の世代をして永遠に進展せしめる事業を創造すべく、新しく偉大なるものを實現した。

權力繼承當時のわれらには、われらの航空技術改新のために必要な出發點が缺けてゐた。ただ不十分な研究が行はれて、それに關する理論が存在してゐただけである。航空工業は、非常に萎靡してゐた。かゝる状態に於ては、ただ完全なる新しき建設によつてのみ成功し得るといふことを、當時余は知つてゐた。

五年間に、われらの工業は、新軍用機と共に、その技能及び創造的價値を高め、その創造的能力は、今日全世界の注視と驚異の的となつてゐる。

偉大で、近代的な航空の研究が樹立され、獨立した航空科學は比較的短時日の間に發生して、斯界の指導的列強に追いつき、凡ての重要な領域に於て最高の能力を争ふに至つた。

航空研究には特殊な困難が伴つた。といふのは、航空研究には、他の場合と比較して、技術

的準備と完成、及び新人の養成といふことが、より多く必要であるからである。高度の馬力を持つ風洞が発見され、目下建設中である。小規模の工場設備でもある動力試験場に於ては、われらの發動機は、馬力の絶えざる増大と、最大限の飛翔度とを目指して、進歩改良を加へられてゐる。航空輸送の保安上、重要な無線設備は、特殊なる研究機關に於ける撓まざる研究によつて完成されるであらう。快速軍用機及び高度航空による搭乗者に及ぼす肉體的、精神的影響、即ち、所謂航空醫學の領域は、われらの科學的研究上、更に重要な領域となつた。

航空技術研究のための五つの國家機關、及び航空醫學研究のための一つの機關が、過去の航空界に新設され、或ひは既存のものを改装して設立された。全航空研究に従事する人員は、權力把握の時に比べて、十倍以上に増大した。

技術的機具に對するかゝる素晴らしい物的改善がなされたとは云へ、しかし、それだけに權力把握の時代に存在した航空界の恐るべき低調を、速かに除去し得ることは出来なかつたのである。一般的進歩のためにも亦、航空技術及び科學を、精神的に基礎づけることは必要であつたのである。そのために、かゝる専門化した今日の科學界に於ては、目新しい七つの法規が發せられた。

一、何らかの形で航空の研究に關係してゐる凡ての方面に對してなされる技術的課題の指令は、國家航空省の技術局の特殊部課の管理下に於て統一的行はれた。同時にそこでは、凡ての建設計畫及び凡ての器具の分配を、現在及び將來の全航空界の技術的要求に即應せしむべく計畫された。

二、研究者の生活條件及び勞働條件は、技術生活や科學生活以外の生活に妥當する原則に準據して決定された。この場合、特殊の研究者を創り出すことが重要な仕事であつた。

三、科學、教育、民族の教養に關し、航空工業及び技術研究上必要な後進を養成するため法規が既に早く、國家の首相と打ち合せられた。といふのは、これら後進の確立がなかつたならば、全ドイツの航空技術及びその甚だしく多岐に亘る製作物の販路は、必然的に非常な危険に陥つたであらう。包括的な教育機關をベルリン、ブラウンシュヴィク、ストットガルトに設立することは既に早く計畫された。

四、國民的反感を買ふまでに、ばらばらで、非概觀的な技術的科學的報告は、全國家の航空界のために綜合され、そして——科學上の個人的方法の價値を維持しながら、——そこから統一的觀點が導出された。

五、研究機關に於ける科學者を、工業機械の構造と結びつけ、更にこの兩者をして、航空將校團及び航空技術隊と意見を交換せしめ、更に、例へば自然科學者、數學者、醫學者、氣象學者、特にわがドイツ青年の教育家等、外部の科學分野に、ドイツ航空の進歩に協力する機會を與へるべく、余は、航空研究のためのリリエントール協會の設立を命令した。わが多方面の近代科學は、この協會に於て、征空の進展に寄與せんとする同一の目的を持つ共通の仕事に結合した。

六、總統が一年半前から着手してゐたドイツ航空研究翰林院の設立の目的は、わが全航空科學及び航空技術の指導部が、軍用機の指導部と協力して、大空征服の廣汎なる問題に對して精神的に共同作業をすることである。

この翰林院に於て、一般科學、就中、自然科學及醫學の指導的代表者は、又この若き航空界に對して、彼等の經驗の寶を提供しなければならない。この若き翰林院も、そこに於けるそれらの人たちの共同と研究方法が、指導的地位に就けらるべきわれらが後進の選抜に當つても、寄與し得るであらう。

この翰林院に於て行はれるものは、絶対に、科學的作業である。リリエントール協會が、非

常に具體的で、主として物質的な課題と、就空機自體及びその部分品を製造するための精神的事業とを綜合するものとすれば、この翰林院で行ふものは、航空研究の原理的、基礎的課題である。

かくて、この兩者の重點及び仕事の方向の相違は充分明瞭である。この翰林院は、したがつてわが國土の民族の將來にとつて、非常に重要な領域の、偉大なる前面的進歩のための開拓者でなければならぬ。翰林院は、その所屬の各人が、最初の任期の五ヶ年以上留任する權利を與へられるのは、ただその精神勞働の内容が非常に高い場合に限られてゐるのだ、といふ事實を知つてゐるときにのみ、よくその課題を遂行し得るであらう。

事實、航空技術全般に對して課題を課することは、先づ、國民的問題なりと考へらるべきことである。なぜなれば、工業の創造するものは凡て、正にわが民族の幸福の増大、或ひは更にわが國土の防衛のためのものであるべきだからである。

加之、近代航空の領域には、個々の國家の利害を超越して、協同體としての文化國家の生命のために重大なる意義を持つところの領域が少からず存在してゐる。これらの領域の多くの場合、その急速にして有効なる助成を永續的になすことは、友好的な國際的協同なくしては絶對

に考へ得られないことである。特に、工業的利用が直接實行されてゐないやうな、未開拓の處女地に於ては、かかる國際的共同作業はわが、文化の本質的標記である。かゝる高遠なる目標を目指す航空研究の領域に於てこそ、かくの如き國際的共同作業はやり甲斐があるのである。それ故に余は、名聲高き外國の科學者及び技師が、通信員として、本翰林院のみならず、航空研究のリリエントール協會にも亦加入して居られることに對して、歡びと満足とを以つて挨拶するものである。

外國に對する、特に、アメリカ合衆國の航空科學や諸多の近接國に對する、かかる友好關係は既に古くからあるのである。それは——個々の研究員の個人的友好感情は勿論のこと——相互の經驗の交換の寄與するところ大なるものがある、といふ認識を基礎としてゐるのである。この翰林院の記念すべき日に當つて、余の希望するところは、外國の科學、及び技術界の重鎮が、本翰林院の名に於て、今後更に一層共同的作業に献身せられんことである。

航空研究の翰林院はなぜ必要であるか。余が、本翰林院の設立を總統に建議しようと思つたとき、これは、科學生活の領域に一つの新しい道を開くものだ、といふことを余ははつきり知つてゐた。古い翰林院は、重要な文化活動の擔當者として偉大なる歴史を持つてゐる。し

かし、それらは、次の點で何らかの自己革新をし得なければ、今日既に、その何百年間の創設者たちを偲ぶ何ものでもないのである。即ち、それは、全國民の最高にして抱括的な知識を、共同の仕事に綜合するところの、全國の最も著名な學者の、唯一にして精神的な指導的結合である。今日わが科學は全體的に餘りに多岐多面となつてゐるがため、凡ての専門部門の最高の代表者たちを、その共通の仕事のための個々の組織に排他的に結合して置く、といふことは、もはや許されなくなつたのである。

全科學の分科的な發展は、前世紀の精神的な力をわれらの時代に送つた、かの發展の方向の一般の特徴である。過去に於ては經濟が、その後種々の方面に於て、國家行政も亦、その國內的建設と共に、この方向に向つて進んで來たのである。航空の領域に於ては、今日の一般科學に見られるが如き分科主義的發展は許容出來ない。若き航空界は——各特殊部門に對する専門知識の養成のほかに——全領域に亘る經驗の緊密なる交換を必要とするのである。専門家としての航空機製作者は、その設計に當つては、例へば發動機の特性を、その最後の構成要素に至るまで設計の基礎に置かなければならないが、同時に彼はまた高度飛行に對する醫學的前提、及び、飛行士や航空旅客に對する設備の効果をも知らなければならぬ。航空科學の根本領域

としての氣流學は、その仕事の中に、航空機の製作並びに航空モーターの製作及び軍用機部門を包含してゐる。

かくて、本翰林院は、科學者と技術家をしてその一面的作業部面を出でて、近代精神勞働の廣汎なる領域に觸れしめ、且つ、この兩者をして、時代の進展に即應して常に新しく相提携して進歩發展せしむることを以て、その職分とする。

われらは未だ始めたばかりである。しかし大空への侵入は、自然の法則上必然的である。地球の距離は短縮する。大洋は生活を細斷する力を喪失し、遠隔の大陸は、明け行く新時代の熱きいぶきを感じる。成層圏への侵入は既に開始せられてゐる。人間の研究意志と撓みなき努力は、既に、冷酷に、敵對的に、わが地球を包被する、かの地球から遠く離れてゐて、人間の生命に敵對する空氣の層に侵入してゐる。同時に、この人間の飛行を促進するものに對する新しい認識は、既に、民族を結合するところの航空交通に利用された。この全世界の發見者たちは、確實にして信頼し得る航空の、最大の敵たる霧と氷を征服すべく、休みなき活動を續けてゐる。この場合、われらの努力が完全無缺なる成果を擧げ得るものではないであらうが、しかし、われらの危険を防止すべき、諸種の個々の手段を完成すれば、將來遂に、益々擴大される

航空の危険も、航海やその他全交通機關以上のものではなくなるであらう。

われらは轉換期に立つてゐるのである。かの不幸なる第一次世界大戦の兵士の年齢の者が、飛行士を本質的な目標として育成し、常に、かゝる人間生命意志の新しき表現は、先づ人類に文化の財寶と平和を與へるべく希望する時代の初頭に生活することを、われらは幸福と考へ、その恵まれたる運命に感謝しなければならぬ。われら人類の思想感情に何千、何萬年來永遠に静止することなき、破壊されることなき宿願を宿せる夢が實現された、この時代に生きるわれらは、誠に幸福である。諸君に課せられた課題の偉大さは、諸君の全人格を捧げるに値するものである。即ち、精神的武器を持ち、われらの科學的原理と、人間の創造的精神に對する寛度ある助成とによつて、この大空征服の思想を押し進めなければならぬ。

諸君がこの課題を完遂するならば、諸君の仕事は、將來の全世界の人類に利益を齎すであらう。それは、陰險なる物質や人間の認識の缺如と戦はなければならぬ困難なる戦ひである。この戦ひはしかし、人間生活及び物質的價値に對する人類の犠牲を、減少するところ大なるものがあるのであつて見れば、それは人間の進歩のために益々必要である。かくて、諸君の仕事は、もし成功の榮冠に輝くその時は、全世界に向つて航空の必要を合圖することになるのである。

る。

かくて、わがドイツの會員の仕事は、わがドイツ航空の科學能力を全世界に注目せしめる、といふ特殊の目的にも捧げられなければならないが、それを以つて最後のものと考へてはならない。就中、翰林院のドイツ會員は、研究に捧げられる全力を擧げて、わが軍用機の必勝的優秀性、わが民族の保護、及びドイツ國民の輝かしき偉大さのために、用ふることを義務とするものである。かかる努力の上に完全なる成果が齎されることを、余は心から熱烈に希望するものである。

本日ここに、ドイツ航空及び特にわが輝かしく勇敢なる軍用機のために、かくの如き設備萬端を以て、祝祭日を擧行した所以のものは、同時にまた、われらの總統が斷乎たる意志を以て、ドイツの空に自由を取り返した、かの歴史的瞬間を回想するためでもある。われらは、祝福すべきこの時に當つて、心からなる感謝の意を總統に捧げるものである。われらは、彼の行く處常に忠誠なる従者として、彼に従つて行くものであることを誓ふ。

永遠の民族

昭和十六年八月廿五日印刷
昭和十六年八月廿八日發行

定價 壹圓六拾錢

著者 高野 瀏

刊行 東京市神田區三崎町一ノ八
常泉 歲夫

印刷 東京市神田區三崎町二ノ一
新陽堂印刷所

製本 東京市神田區三崎町二ノ九
横田製本所

發行所 東京市神田區三崎町一ノ八
青磁社

電話東京一七三二八番
電話神田二二五四番

配給元 日本出版配給株式會社
東京市神田區高島二ノ九

獨逸宣傳省
大臣

ゲツベルス著

高野

瀧澤編(拾版)

宣傳の偉力

B 6 判三〇〇頁
フランス裝美本
一・五〇 千一四

宣傳は最も
嶄新な政治
的手段であ
り最も近代
的な政治闘
争の表現方
法である!

前大戰に於て完全に情伏せる獨逸の真相を目撃したる者は誰か再び起つて正に歐洲全土を席捲せんとする輝かしき大獨逸の今日を想像し得たであらう。雖伏廿年、その間の苦闘と勝利の姿はヒットラーの『わが闘争』に判然と示されてゐるが、そのヒットラーと手を握つて、陰に陽に彼を援け、今日のナチス・ドイツを建設せる偉大なる功勞者の第一人者は、實にゲツベルス博士である。
本書はドイツ宣傳大臣ゲツベルスの、宣傳による闘争の記録であり、燦たる勝利の金子塔だ!

ゲツベルスの聲による「わが闘争」!

譯 德 恒 谷 菅

クイワツ・ンアフテス

史 歴 の 熱 白

ツワイクは本書に於て、人類の歴史を——歴史を通して人類の運命に關する命題を探究せんとした。ナポレオン、ゲーテ、ドストイェフスキイ、南極探險家スコット等を拉し來つて、歴史に於けるわづかの瞬間が、如何に人類の世界と悠久の歴史とに、異常な變化と刺戟とを齎したか、世紀のドラマを語る珠玉篇。

入函 頁〇〇二 判5 A
製特刷度二文本
四一・送 〇五・二

著 三 修 山 菱

集 詩

郷 望

孤高の詩人菱山修三氏の『懸崖』『荒地』に次ぐ第三詩集である。著者が永らく病床にあつて死に直面しつゝ思索し、激しい闘病の後にこの一卷は編まれた。『懸崖』といひ『荒地』といひ、共にその題名の示す如きけはしい境地から脱却して、健康恢復期にある目下の著者の心境は、自ら『望郷』の二字に具現されてゐる。

四一・送 〇五・二

定限部百二製特

二二・送 〇八・三

譯 郎 一 菊 上 村

ル ー レ ト ー ボ

詩 文 散

『惡の華』の詩人ボードレールは、此の散文詩一卷の中に最も人間性に徹した、飽くことなき肉欲の異臭と近代的な苦悶とを盛つた。而も今猶ボードレールの萬人に愛誦せらるゝ所以は、その暗黒と汚濁の裡に、絶えず光明と希望とを求めて止まぬ魂の呻吟と、熾烈なヒューマニティとを抱合してゐるからに他ならぬ。

四一・送 〇五・二

定限部百二製特

二二・送 〇八・三

近刊豫定書

高ゲ
野
リ
瀏
ン
グ
永
遠
の
民
族

菱
山
修
三
譯
ヴ
ア
レ
リ
イ
詩
集

中
本
ン
ダ
保
ア
ル
譯
愛
に
つ
い
て

ヘ
ギ
ー
・
ス
コ
ッ
ト
譯
空
爆
下
の
英
國
婦
人

村
上
菊
一
郎
著
詩
集
夏
の
鶯

高
村
光
太
郎
堀
口
大
學
村
上
菊
一
郎
山
内
義
雄
三
好
達
治

佛
蘭
西
詩
集

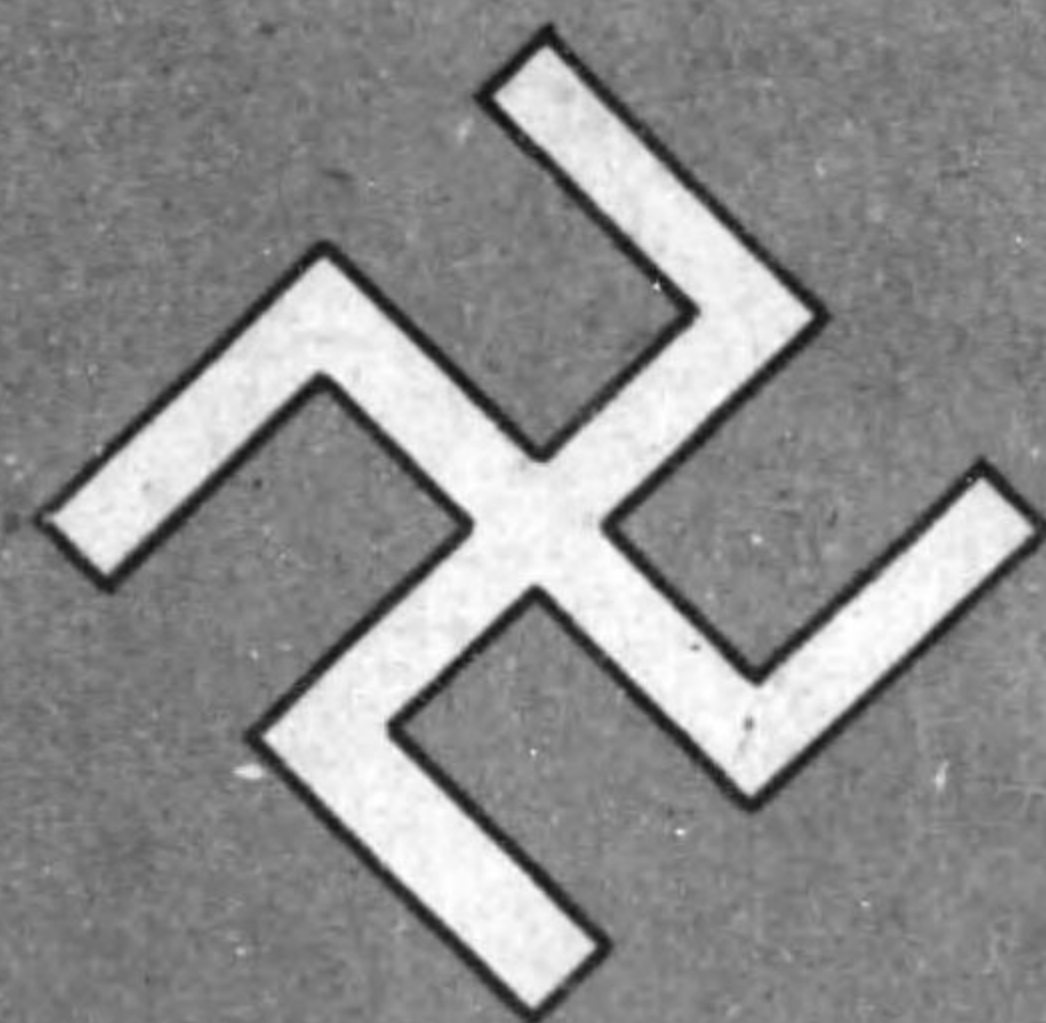
クッパ ルーパ
譯 廉 里 申

空の那岐



社 磁 青

KI 45-
61



終

○
復
子